



アキレスのCSR 2019

詳細版



Living with Society



Contents

目次／このレポートについて	01
トップメッセージ	02
事業内容／沿革	03
会社概要	04
企業理念・CSR重要テーマ	05

特集

①Achilles THE NEXT 2018	07
②研究開発本部の取り組み	09
③海外でのCSR活動	11

環境のために

環境マネジメントシステム	12
地球温暖化対策	14
省エネルギー	15
3R活動と完全ゼロエミッション	15
大気汚染防止	16

社会と共に

品質への取り組み	17
労働安全衛生・防火防災への取り組み	18
お客様と共に	20
株主様と共に	21
取引先様と共に	21
従業員と共に	22
地域社会と共に	24

マネジメントについて

コーポレートガバナンス	26
コンプライアンス	27
CSRマネジメント	28

データ編(環境のために)	29
--------------	----

このレポートについて

■ 報告書対象範囲

アキレス株式会社および国内子会社・海外子会社
※範囲が異なるものについては個別に明記します

■ 報告対象期間

2018年4月～2019年3月

■ 発行時期

前回：2018年9月

今回：2019年9月

次回：2020年9月(予定)

※年1回発行

■ 参考にしたガイドライン・原則・技術規定

ISO 26000(社会的責任に関する手引)

ISO 14001(環境マネジメントシステム)

■ 編集方針

アキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、「健康」「快適さ」「楽しさ」を感じることが出来る製品やサービスを提供することが、グループにとっての重要な課題であると位置づけています。また持続可能な社会の発展に貢献する活動として、「省エネルギー化」や「地球温暖化防止」にも積極的に取り組んでいます。これらの課題への対応には株主様、お客様、お取引先様、従業員などさまざまなステークホルダーとの連携が重要であると考えています。本レポートでは、ISO 26000を活用して取り組みのチェックを行いながら、グループの主なCSR活動に関する詳細な情報をESG(環境、社会、ガバナンス)で分類し、パフォーマンスデータと共に活動報告として記載しています。

CSR報告ツールについて

詳細版 ※本誌

アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、詳細に紹介しています。

冊子版

アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、エッセンスを報告しています。



アキレスのCSR

検索

<https://www.achilles.jp/csr/>

トップメッセージ



代表取締役社長

伊藤 淳

「初心にかえる」、この言葉を改めて考えてみたい。そんな気持ちになったのは、新聞やテレビニュースでいろいろなハラスメントや品質偽装問題などが報道されることが増えたからです。これらが起きた原因の多くは、自分自身が多くの人と密接にかかわり合っているにもかかわらず、それを無視、または軽視し自己中心的な考えで行動する行為と、それを許す組織風土にあると思っています。

私たちアキレスの「初心」とは何か。それは、創業の精神に立ち返ってみると、戦後「新しい暮らしの夢を創る」企業として発足し、わずかな社員が一枚岩となって「お客様の暮らしを豊かにしたい」との強い思いを持ち、果敢に新たな事業に挑戦した、その熱意にほかならないと思っています。

私たちアキレスグループの企業理念である「社会との共生」＝「顧客起点」は、まさに「社会的課題」や「お客様の身近に起きて困っておられる問題」を解決する企業として、グループ一丸となって取り組んでいくことであります。これらの問題を解決するために必要なことは、社員一人ひとりの力を集め、またその総和を適切に課題に振り向けていくことであり、より実効性を高めていく上で、社員個々の力を向上させ十分に発揮できるよう、教育研修を充実させてまいります。

また、プラスチック加工メーカーとして、お客様に寄り添った身近な製品をタイムリーにご提供できる開発体制も、充実させてまいります。特に環境対応製品や循環型製品のさらなる開発も行わなければなりませんし、とりわけ世界的な課題として対応を求められるプラスチックの海洋汚染について、プラスチックの良さを生かしつつ、自然に還る素材の開発に注力していきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックを来年に控え、私たちアキレスグループの商品やサービスを世界のお客様に知っていただく絶好の機会と捉え、グループ全員が世界・日本社会の動向やお客様のニーズを把握し、積極的なご提案をさせていただきたいと思っております。

2019年9月

事業内容

シューズ部門

シューズ事業部 キッズ、メンズ、レディースシューズ



キッズ



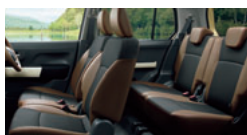
メンズ



レディース

プラスチック部門

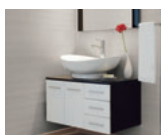
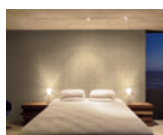
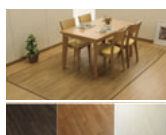
車輻資材事業部 車輻内装用資材、一般塩化ビニールレザー、合成皮革など



化成事業部 一般用・工業用・農業用フィルムなど



建装事業部 建築用内装資材



引布販売部 防災テント、ボート、住宅排水管用フレキシブルジョイントなど

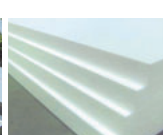
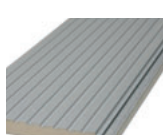


産業資材部門

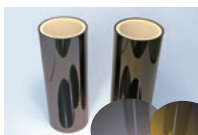
ウレタン事業部 軟質ウレタンフォーム製品、および2次加工製品



断熱資材事業部 硬質ウレタンフォーム断熱製品、現場発泡用硬質ウレタンフォーム、発泡スチロール断熱材など



工業資材販売部 静電気対策製品、反応射出成形品など



開発営業部

開発営業部 [Tn-p工法]などインフラ関連技術、「グラス」



沿革

1947年	5月	資本金200万円をもって「興国化学工業株式会社」を設立。本店を東京都中央区日本橋とし、工場を栃木県足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始。
1948年	4月	塩化ビニール製品の製造・販売を開始。
1951年	3月	本店を東京都中央区新富町に移転。
1956年	6月	大阪営業所を大阪支店に昇格し、関西市場の拡張をはかる。
1957年	4月	栃木県足利市に山辺工場(現・足利第一工場)を建設。
1961年	6月	英国ICI社と軟質ポリウレタンフォームの製造に関する技術提携。
1962年	9月	東京証券取引所市場第一部に上場。
1963年	1月	当社独自の合成皮革「カブロン」の製造に成功、販売を開始。
1964年	2月	本店を東京都新宿区大京町に移転。
1965年	11月	米国ニューヨークに現地法人アキレス K.C.I. Corp. を設立。 (1978年ACHILLES USA, INC. により吸収)
1969年	7月	栃木県足利市に御厨工場(現・足利第二工場)を建設。 車輻内装材、硬質ウレタンシェル等産業資材の製造に着手。
1973年	2月	香港駐在員事務所を現地法人とし、「興白有限公司」(現ACHILLES HONG KONG CO., LIMITED) 設立。
1973年	10月	滋賀県犬上郡に関西工場(現・滋賀第二工場)を建設。
1973年	11月	米国ワシントン州エヴァレット市に「KOHKOKU USA, INC.」(現ACHILLES USA, INC.) を設立。
1974年	8月	北海道美唄市に美唄工場を建設。
1978年	11月	滋賀県野洲市に滋賀第一工場を設立。
1982年	2月	社名を変更し、「興国化学工業株式会社」から「アキレス株式会社」とする。
1986年	6月	ドイツA.S.Creation社と壁材製造に関する技術提携。
1988年	3月	スウェーデンTarkett社と床材の製造に関する技術提携。
1989年	1月	福岡県飯塚市に九州工場を建設。
1993年	12月	中国昆山市に塩ビレザーの製造合弁会社「昆山阿基里斯人造皮有限公司」設立。
1998年	12月	導電性素材「STポリ」生産開始。
2002年	9月	ISO 14001全国7工場6関連会社の全てで認証を取得。
2002年	10月	中国上海市に、中国国内における当社関連製品の販売および輸出入を行う「阿基里斯(上海)国際貿易有限公司」を設立。
2004年	2月	「昆山阿基里斯人造皮有限公司」第二工場稼働。
2005年	12月	栃木県足利市の足利第一工場内に「アキレステクニカルセンター」を開設。
2006年	11月	「三進興産株式会社」の発行済全株式を取得し、当社子会社とする。
2007年	10月	環境に配慮した車輻内装用合成皮革の生産に向け、最新鋭製造設備を足利第一工場に導入。 全事業部でのISO 9001取得。
2008年	2月	台湾に、半導体市場の生産拡大に合わせ「阿基里斯先進科技股份有限公司」を設立。
2008年	4月	米国デトロイトにACHILLES USA, INC. の営業所を設立。
2009年	3月	シューズ「瞬足」ブランド、伊藤忠商事株式会社とパートナーシップ契約を締結。
2015年	2月	本店を東京都新宿区北新宿に移転。

会社概要

設立 1947年5月
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守
 資本金 146億4千万円
 従業員数 1,677人(連結) ※2019年3月末
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

本社所在地 〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
 事業所 [販売拠点] 東京、大阪、北海道、愛知(ウレタン)、福岡
 [生産拠点] 栃木(3拠点)、滋賀(2拠点)、北海道、福岡
 ※各拠点の詳細な住所は以下URLでご確認ください
<https://www.achilles.jp/company/>

事業拠点

アキレス アキレス(株) 拠点

子会社事業説明

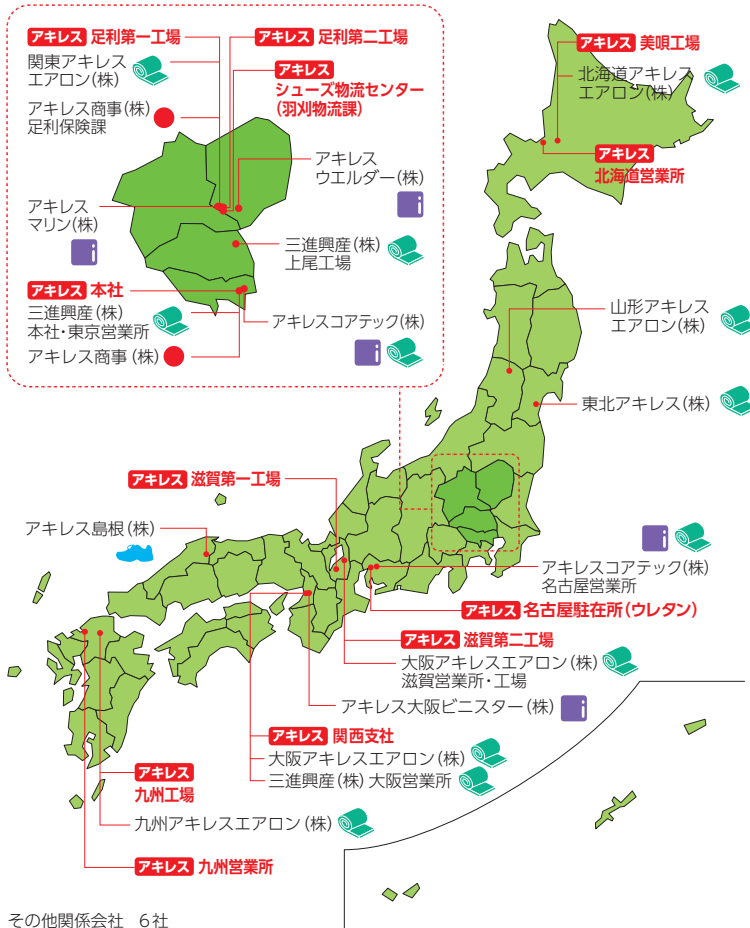
シューズ部門

プラスチック部門

産業資材部門

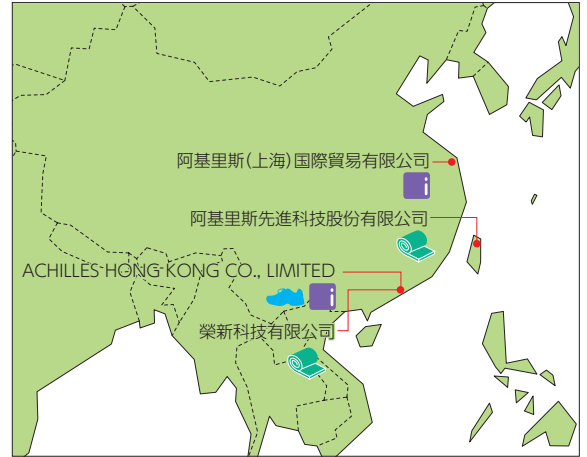
その他

●日本

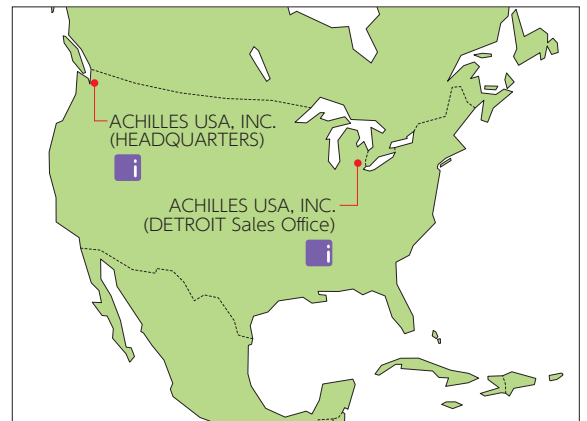


その他関係会社 6社

●アジア

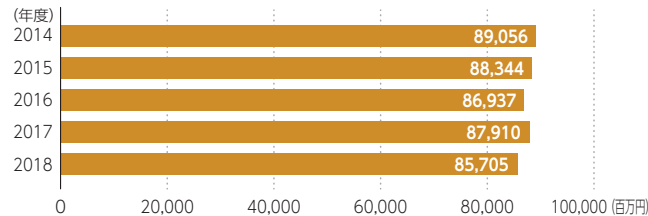


●アメリカ

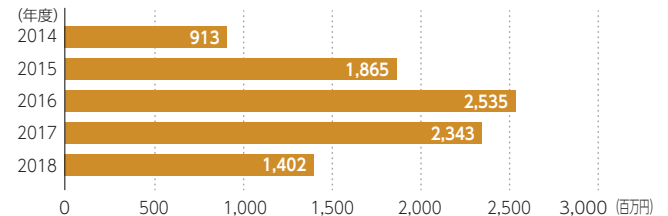


連結売上高・利益年度別推計

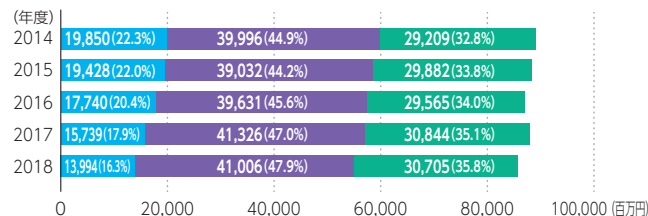
●売上高



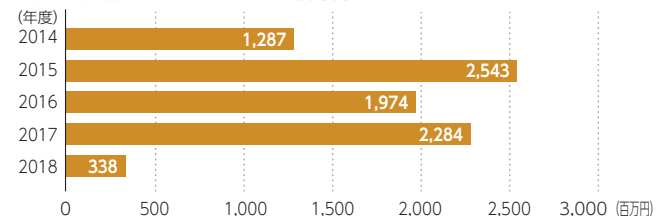
●営業利益



●セグメント別



●親会社株主に帰属する当期純利益



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください

「社会との共生」=「顧客起点」

「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する。

アキレスグループのCSRの基本的な考え方

私たちアキレスグループは、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けることを目指しています。そのために必要なのが、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。「健康」「快適さ」「楽しさ」「省エネルギー」をキーワード

に、創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、独創性のある製品をご提案します。私たちはたゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待に応えます。

アキレスのCSR重要テーマと活動目標・実績

アキレスでは、ISO 26000の7つの中核主題に基づき、自社にとって重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」と位置づけています。

CSR重要テーマ・活動方針	2018年度の活動目標	2018年度の主な活動実績	自己評価※1
<p>製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供</p> <p>製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します</p> 	<p>有害物質の排除など、製品デザインレビュー時の安全審査の徹底</p> <p>品質管理の徹底(全工程パトロールの推進)</p> <p>持続可能な消費・環境配慮への啓蒙推進</p> <p>高耐久製品および長寿命製品の訴求</p> <p>英語・中国語などカタログ記載言語の拡充</p> <p>ユニバーサルデザインによる注意・警告ラベルの採用推進</p> <p>グリーンプラ・エコマーク商品の訴求</p> <p>大気汚染削減への推進</p> <p>バリューチェーンにおけるCSR活動の推進</p> <p>アンケート調査による苦情対応方法の改善推進</p> <p>品質保証に関する知見を高めサービス向上を推進</p> <p>接客マナー向上による顧客サポート体制の強化</p>	<p>製品素材の安全性審査の実施/PRTR*2法対象物質の管理/全製造工程パトロールによる品質管理/省エネルギー化につながる新築向け断熱製品の訴求(ジーワンボード・キューワンボード)/省エネルギー化につながる住宅リフォーム用製品の訴求(ジュウテンR)/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の訴求(ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/高耐久製品の開発推進(車輻資材)/脱有機溶剤化の推進(車輻資材)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/生分解性フィルム製品の訴求(農業用フィルム製品)/脱ジクロロメタンへの取り組み(ウレタン製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/品質保証に関する研修の実施(リスクと対処など訴求)/マナー向上研修の拡充(大卒新入社員)</p>	A
<p>環境への取り組み</p> <p>CO₂、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組みます</p> 	<p>環境目標達成の推進(CO₂削減、省エネ推進、廃棄物削減など)</p> <p>気候変動への対応</p> <p>輸送に伴うエネルギー使用量削減の推進</p> <p>災害等緊急時の製品輸送手段の確保</p> <p>地球温暖化係数の低い発泡製品品の訴求</p> <p>製品(シリコンウエハー搬送用ケース)のリユース事業の推進</p> <p>大気汚染削減への推進</p> <p>長寿命製品の訴求</p> <p>バリューチェーンへの環境配慮活動の啓蒙(価値連鎖)</p> <p>サプライチェーンへの環境配慮活動の啓蒙</p> <p>森林保全活動への参画や水質汚染防止訓練への参加</p> <p>木質バイオマス燃料使用などによるCO₂削減活動への協賛</p> <p>工場見学を通して地域社会との対話を促進</p>	<p>全事業場でのCO₂削減と省エネルギー活動の推進/3R*3活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/モーダルシフトの推進(輸送時)/災害時に鉄道輸送に代わるトラック輸送の確保/特殊包括火災保険への水災危険担保特約付保(足利第一、第二工場)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネと快適空間の訴求(ジーワンボード・キューワンボード)/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品・開発営業部製品)/RoHS2*4対応製品の訴求(機能性フィルム)/リサイクルを考慮した製品開発(ポート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/リユース容器の訴求による廃プラスチックの削減/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取り組み(森林保全活動への寄附など)/地域社会のCO₂排出削減活動への協賛(J-フレジット購入)/工場見学、美化活動など地域社会活動の取り組み</p>	A

CSR重要テーマ・活動方針		2018年度の活動目標	2018年度の主な活動実績	自己評価※1
公正な事業慣行	取引先との協働 取引先を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します	[アキレス行動指針]の遵守推進	[アキレス調達基本方針]の訴求/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/従業員の法令遵守意識の啓蒙(コンプライアンス研修、内部通報制度の訴求、秘密保持や知的財産などに関して契約範囲や管理などを啓蒙)/独占禁止法及び、下請法遵守の訴求/内部監査の適宜実施	A
		[アキレス調達基本方針]の徹底(サプライチェーンに対する啓蒙)		
		内部通報制度(「ホットライン」)の周知		
		コンプライアンス研修の実施		
人権と労働慣行	人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します 	[アキレス行動指針]の遵守推進	[アキレス行動指針]遵守への誓約/[従業員アンケート]の実施(人権リスクの把握)/内部通報手続きフロー図の掲示(全事業場)/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/コンプライアンスチェックノートの配布(製造従業員)/グローバル・フォローアップ研修の実施/コンプライアンス研修の実施(海外子会社の現地スタッフ)	A
		[従業員アンケート]の実施		
		内部通報制度(「ホットライン」)の周知		
		[アキレス調達基本方針]の徹底(サプライチェーンに対する啓蒙)		
		グローバル人材育成プログラムの推進		
		コンプライアンス研修の実施		
安全で働きやすい健康的な職場環境	安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます 	ストレスチェックの実施を含む労働安全衛生法の遵守	ストレスチェックの実施(国内全事業場)/定期的に安全衛生委員会を開催し職場の安全パトロールを実施/職場環境の改善実施/5S活動の推進(製造部門)/産業医との相談窓口の設置/ウォーキングキャンペーンの実施(アキレス健康保険組合との連携)/救急対応マニュアルの制定/健康セミナーの実施(本社)	A
		職場の安全パトロールと改善活動の推進		
		5S活動による職場環境の美化推進		
		救急対応マニュアルの制定		
		健康づくりに役立つプログラムの提供		
地域との関わりと社会貢献活動	地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献します 	事業場近隣地域の企業の活用	地元教育機関や企業の工場見学受け入れ/地元企業への取引機会の提供/地域の清掃ボランティア/水質事故被害拡大防止訓練への参加(滋賀県)/足利花火大会および足利尊氏公マラソン大会への協賛/第17回ジュニア陸上競技チャレンジカップへの協賛(東京都)/第7回瞬足チャレンジ2019/[「足育(そくいく)」活動出前講座の推進(東京都周辺)/「足育(そくいく)」足型測定会(全国)]	A
		地域社会の催事への参画		
		事業場近隣の清掃活動の実施		
		地域の防災活動への参加		
		教育機関からの工場見学受け入れ		
		[「瞬足陸上教室」]の開催		
		[「足育(そくいく)」活動出前講座]の実施		
ガバナンス・リスクマネジメント	経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組みます	CSRマネジメントの推進(ISO 26000に準拠)	[アキレスCSR重要テーマ]への取り組み推進/ガバナンス強化の推進(CGコード※5対応、内部統制環境の拡充推進など)/コンプライアンス研修の実施(海外子会社の現地スタッフ)/ステークホルダーエンゲージメント/[Achilles THE NEXT]の開催/顧客満足度アンケートの実施/新人事制度の運用推進	A
		コンプライアンスの推進		
		コンプライアンス研修の実施		
		ステークホルダーのニーズの把握と反映		
		各種人材育成プログラムの実施		

※1 自己評価の基準 A=良好、B=良、C=不足
 ※2 Pollutant Release and Transfer Register(環境汚染物質排出・移動登録)の略語です
 ※3 廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、再生資源としての再利用(リサイクル)の略語です
 ※4 RoHS(ローズ)は、電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についての欧州連合(EU)による指令です。2015年に改訂され、RoHS2では、これまで規定していた禁止6物質に加え、新たに4物質が追加され、合計で10物質が対象となりました
 ※5 コーポレートガバナンス・コードの略語です。東京証券取引所の有価証券上場規程の別添として定められ、2015年6月1日から上場企業に適用されています

持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGsは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略語です。2030年までを期間として、2015年に国連で採択された国際目標で、17のゴールと169のターゲットで構成されています。P5・6表内のCSR重要テーマ・活動方針の下に配置したロゴは、アキレスグループがそれぞれの取り組みを通して貢献しているゴールを表しています。



お客様・お取引先様との価値協創に向けた総合展示会 Achilles THE NEXT 2018

「Achilles THE NEXT」マテリアル&プロダクト展2018(以下、ATN2018)は、お客様・お取引先様に当社の価値創造の源泉を深くご理解いただくとともに新たな価値創造を目指し、闊達な対話を行うことを目的としたアキレスグループの総合展示会です。

開催目的 企業理念の実践に向け、ご来場者様とのパートナーシップを強化

アキレスグループは、企業理念である「社会との共生」=「顧客起点」の実践を通じて、より良い豊かな社会の実現への貢献を目指しています。人々が豊かと感じる社会のため、アキレスグループが社会に提供すべき価値について、幅広いステークホルダーの皆様のご意見に耳を傾け、その要請に応え続けることが重要なミッションであると考えています。また、社会にとって有意義な価値の創造は、当社グループを含めたバリューチェーン全体で取り組むことで、より大きな価値へと進化するものと考え、当展示会は、そのような機会の一つと位置づけています。

当展示会は、2013年の初開催から5回目となります。今回は、「変幻自在な未来へ。人に社会に、プラスチックができること」をテーマに掲げ、コア技術、素材、パートナー企業など、さまざまな組み合わせを模索した製品群を展示し、そこから見える新たな価値について、さまざまな業種のお客様から貴重なご意見をいただくことができました。

豊かな社会を目指し、いただいたご意見をもとに新たな価値を創造し続けていきます。

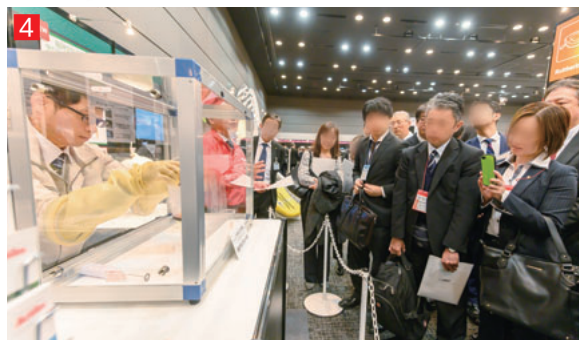
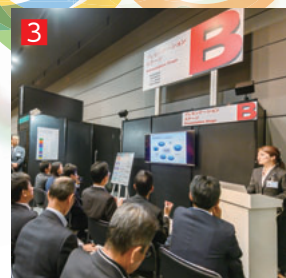
Achilles
THE NEXT
みなさまと、ともに。

マテリアル&プロダクト展 2018

開催日:2018年11月20日(火) 21日(水)

会場:ベルサール新宿グランド

開催テーマ:「変幻自在な未来へ。人に社会に、プラスチックができること」



1 導電と車輦用内装材の技術を活用した「導電性合成皮革」は、多くのご来場者様から評価をいただきました。2 開場と同時にたくさんのご来場者様でにぎわった受付スペース。3 会場内3カ所に設置したプレゼンテーションステージでは、熱心に耳を傾けるご来場者様の姿が印象的でした。4 事業部展示コーナーでは、対話やデモンストレーションを通じて、展示員とご来場者様の活発なコミュニケーションが行われていました。

展示内容

当社の現在と未来を伝え、社会的課題に向けた挑戦も訴求

ATN2018では、事業部ごとの製品展示やデモンストレーション、プレゼンテーションなどを通じて、当社の最新の技術・製品を紹介しました。また、社会的課題の解決に向けた未来の製品

を紹介するコーナーや、ご来場者様参加型の展示など新しい取り組みにもチャレンジしました。

Close-Up1 | 企画展示「技術の融合ーアキレスの挑戦」

ATN2018のメインコーナーとなる企画展示では、「技術の融合ーアキレスの挑戦」をテーマとした展示を実施しました。4つの社会的課題とアキレスの技術分野を掛け合わせ、事業部相互の技術の融合により開発を進めている23の製品・技術を展示しました。本コーナーはATN2018の中でも最も反響が大きく、社会的課題を意識したモノづくり、事業部の技術コラボレーションに、関心と期待の声が寄せられました。

■展示製品例

快適な居住空間の創造

静電気・電磁波

裏面めっき加工壁紙

建築事業部、工業資材販売部、研究開発本部により開発を進めている製品です。壁紙へのめっき加工を実現し、静電気を感知するセンサーとしての利用のほか、将来的には静電気を電力として取り出すデバイスへの応用を検討しています。



医療・福祉の充実

抗菌・抗ウイルス

抗ウイルステント

引布販売部とフィルム販売部により開発を進めている製品です。地震、水害などの発生により、災害医療の重要性が高まる中、テントに抗ウイルス機能を付与し、現場でのウイルス感染対策に貢献します。



4つの社会的課題

- 快適な居住空間の創造
- 安全・安心の社会へ
- 医療・福祉の充実
- 産業と技術革新の基盤

事業部を超えた
技術の融合により
新たな価値を創出

アキレスの技術分野

- 静電気・電磁波
- 熱
- 抗菌・抗ウイルス
- 吸音・防振

Close-Up2 | フィナーレ展示「できるかも!」

会場出口付近に設置したフィナーレ展示では、「できるかも!」と題し、従業員から募った未来の製品のアイデアを紹介しました。また、ご来場者様には、「こんなモノ、できたらいいな!」というアイデアをカードに記入して、展示ボードに貼付いただきました。ご来場者様からは「具体的なプランを相談したい」というご要望もいただいております。お客様・お取引先様との価値協創につながる、双方向のコミュニケーションを醸成することができました。



成果

ご来場者様との絆が、価値協創の新たな一歩に

大盛況のうちに幕を閉じたATN2018。その成果は、ご来場者様アンケートの結果にも表れています。多くの方から好意的なご回答をいただき、当社の技術・製品への理解を深め、モノづくりの姿勢に共感いただけたことを確認しました。また一方で、当社の展示員もご来場者様との対話を通じて、今後の製品・技術開発につながる気付きを得ることができました。モノづくりの起点として当展示会での対話を機に開発が始まった製品が複数ありました。今後も価値協創の実践を推進していきます。

ご来場者様の声

※ご来場者様アンケートより抜粋

新しいアイデアで、新しいアキレスを創っていく勢いを感じました

社会的課題と技術をクロスさせた展示がユニークで分かりやすかった

汎用技術を組み合わせることで新たな価値を生み出す視点が素晴らしい

アキレスさんの可能性を感じる事ができる良い展示会でした

■数字で見る成果



ご来場社数
968社



ご来場者数
2,263人



好意的なご意見*
94%

※「好意的なご意見 94%」は、ご来場者様アンケート「設問8: 今回の展示会に関してご意見をお聞かせください。」に対するご回答で「とても参考になった(38.1%)」「参考になった(55.9%)」の合計値です。

プラスチック加工技術を基盤としたモノづくりで社会に貢献 研究開発本部の取り組み

当社の基盤技術であるプラスチック加工は、素材の特性を生かしながら、変幻自在に形状や機能などを変えていくことができます。

ここでは、このプラスチック加工技術を用い、お客様に寄り添いながら幅広い分野に向けた製品開発を行う、研究開発本部の取り組みをご紹介します。

研究開発方針

当社は、プラスチック加工技術を基盤に多彩な製品を開発しています。新製品・新技術の開発では、常に「お客様に感動や驚きを与えたい」という思いを発想の原点としています。

そして、研究開発本部では、「新たな価値・市場の創造」、さらに「画期的な技術・商品の創出」を大きな使命としています。

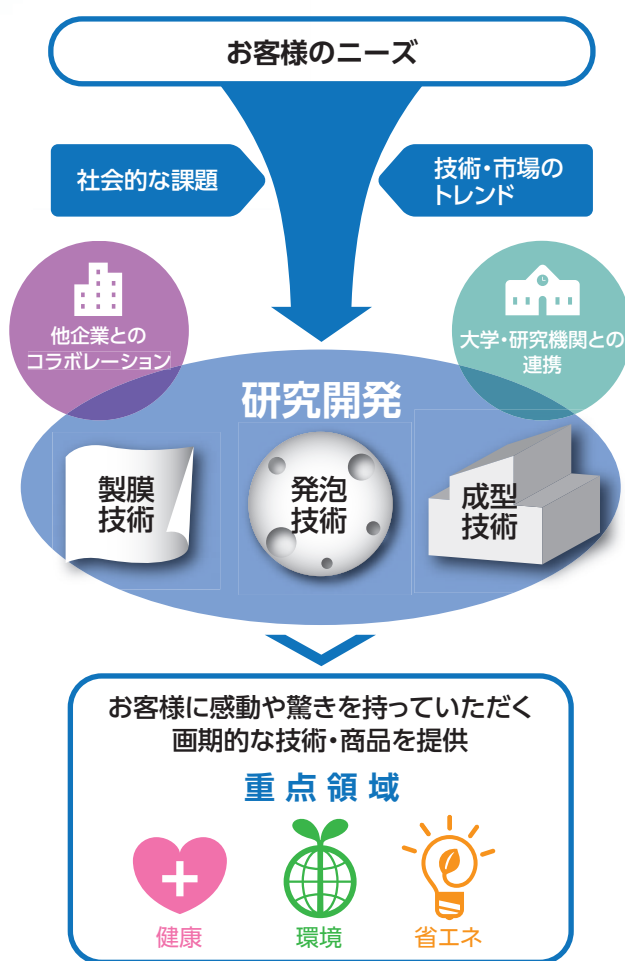
コア技術と重点領域

当社のプラスチック加工技術は、「製膜」「発泡」「成型」をコア技術とし、これらをベースに社会的課題の解決に貢献するさまざまな新製品の開発を目指しています。

中でも、当社の内部資源や、当社を取り巻く外部環境、さらには他社には真似のできない技術力、ノウハウを踏まえ、「健康」「環境」「省エネ」の3つを重点領域と定め、研究開発の注力すべきテーマとして照準を合わせています。



研究開発本部の研究室



新たな価値協創への取り組み

他企業とのコラボレーション

当社では、自社の所有する技術と、他の企業が所有する技術を組み合わせる共同開発を、積極的に推進しています。他の企業とコラボレーションすることで、従来にはない、付加価値が高い製品を生み出すことが可能となります。一例として、当社が開発した立体透明電極および光透過性合成皮革と、SMK株式会社様のタッチパネル制御技術を組み合わせることで、「皮革調立体タッチパネル」が実現します。



「皮革調立体タッチパネル」デモ機
OFF状態では皮革調だが、ON状態ではタッチパネルに変化

大学・研究機関との連携

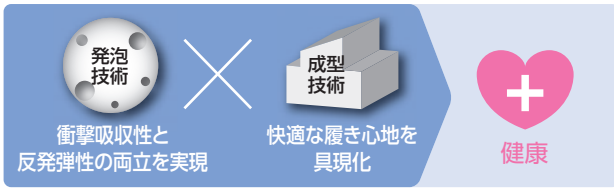
当社の多彩な製品群により高い付加価値を創出するため、さまざまな大学や公的研究機関の基幹技術を活用した共同研究を進めています。研究テーマは幅広く、物性発現の原理説明や劣化原因などの基礎研究から、将来の当社を支える製品開発に向けた応用研究まで多岐にわたります。今後も多くの大学や研究機関との共同研究を通じて、社外の知見を積極的に取り入れながら、研究開発を強化していきます。



新シューズ開発時の性能測定の様子

開発事例

当社は「製膜」「発泡」「成型」のコア技術をコラボレーションさせつつ、「健康」「環境」「省エネ」の3つの重点領域に照準を合わせ、数多くの製品を生み出しています。



走るリカバリーシューズという新発想 「MEDIFOAM(メディフォーム)」

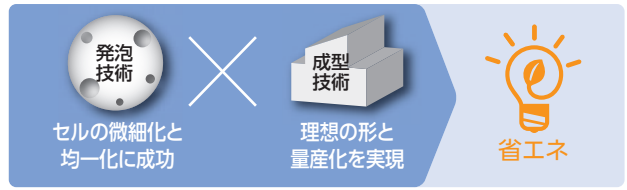


「豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けること」を目標に掲げるアキレスは、新たな価値を生み出し続ける上で「健康」を一つのキーワードとしています。そんなアキレスが、3年をかけて製品化にたどり着いたのが、「MEDIFOAM(メディフォーム)」。

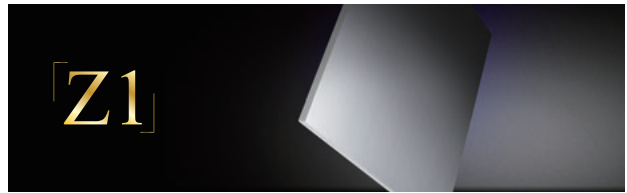
ミッドソールに自社開発の新ポリウレタン素材を使用し、高次元の衝撃吸収性、反発弾性、耐久性を実現したランニングシューズです。「走るリカバリーシューズ」という新発想のコンセプトを掲げ、ランナーの走る楽しさを支えています。



研究開発本部
応用研究開発グループ
機能性素材チーム 課長
森 宏生



アキレスらしさを生かし、業界最高水準*の断熱性能を実現 「ジーワンボード(Z1ボード)」



「ジーワンボード(Z1ボード)」は、アキレスならではの発泡技術を駆使して開発された硬質ウレタンフォーム断熱材です。発泡プラスチック系としては業界最高水準*の断熱性能が最大の特長。同時に優れた遮熱機能も持つため、四季による気温の変化が大きい日本の住宅や建築に適した断熱材として幅広く利用され、住宅の省エネルギー化に貢献します。



研究開発本部
産業資材開発部
断熱資材チーム
小池 大和

*2019年1月末の時点で販売されている建築用断熱材のうち、真空断熱材などを除く、一般の繊維系断熱材、発泡プラスチック系断熱材と同じ断熱性能発現機構を持つ製品との比較であり、当社調べです



柔軟性に優れ、幅広い領域での活用が可能 「ポリピロールめっき法」



2003年から10年以上の開発期間を経て事業化にたどり着いた、無電解めっき処理技術「ポリピロールめっき法」。社内公募により、「Surface finish Technology for Electroless Plating」の頭文字をとって命名された「STEP」というプロジェクトから誕生した技術です。従来のめっき処理と比べて環境負荷が小さく、省エネルギーに貢献し、幅広い領域での用途展開を可能にしています。



研究開発本部
応用研究開発グループ
副部長
芦澤 弘樹



自然に還る、地球と人にやさしい生分解性フィルム 「ビオフィレックスマルチ」



環境にやさしい生分解性フィルムの配合技術や、製膜技術を活用して開発された、生分解性の農業用マルチフィルム「ビオフィレックスマルチ」。地温の上昇効果や雑草防止効果を発揮する上、微生物が最終的に水と二酸化炭素に分解してくれます。そのため、フィルム回収と廃棄の負担が減り、持続可能な社会の実現に貢献します。



研究開発本部
応用研究開発グループ
機能性フィルムチーム 課長
福田 周平

海外でのCSR活動

アメリカ合衆国

ACHILLES USA, INC. (HEADQUARTERS)の取り組み



ACHILLES USA, INC.は、アキレスグループの北米におけるプラスチック製品の生産販売拠点です。直近の課題として、工場内で発生するフィルムのスクラップや不良品の廃棄処理コスト削減に取り組んでいます。具体的なプロジェクトとして、スクラップなどを熔融混練してペレット化する加工装置の導入を推進しています。ペレット化によりスクラップなどを再資源化することで、原材料使用量の削減や社外で処理した場合の経済損失の半減につながると考え、2019年度の本稼働を目指しています。



ACHILLES USA, INC. プロジェクトスタッフとペレット加工装置（アメリカ合衆国 ワシントン州）



加工前（スクラップ）



加工後（ペレット）

香港

ACHILLES HONG KONG CO., LIMITEDの取り組み



ACHILLES HONG KONG CO., LIMITEDは、香港に拠点を置く当社の販売拠点であり、主にシューズ製品を販売しています。当社ブランドの「瞬足」は香港でも人気の子も靴であり、ブランドの訴求と併せて、正しい靴の選び方の啓蒙活動を、香港でも行っています。

また、ACHILLES HONG KONG CO., LIMITEDでは、複数の養護学校を運営している「Haven of Hope」が主催する「バランスバイク大会」に毎年協賛を行っています。各企業から集まった協賛金は、大会運営のほかに、養護学校の運営にも役立てられています。



協賛金は養護学校に寄附（香港）



大会ポスター

中華人民共和国

阿基里斯（上海）国際貿易有限公司の 取り組み



阿基里斯（上海）国際貿易有限公司は、2018年9月14日にフレンド（ボランティア団体）、TARC（上海ランニングクラブ）と協力して、雲南省貧困地域の小学校へ「瞬足」470足を寄贈しました。また、阿基里斯（上海）国際貿易有限公司では、上海の百貨店の「瞬足」売り場で足型測定会を開催し、正しい靴の選び方や履き方を啓蒙しています。



貧困地域の小学校での寄贈式（中華人民共和国 雲南省）



百貨店の「瞬足」売り場での足型測定会（中華人民共和国 上海）

台湾

阿基里斯先進科技股份有限公司の 取り組み



阿基里斯先進科技股份有限公司は、従業員へのコンプライアンス教育と啓蒙を行い、公正で透明な取引慣行の履行に努めています。また、アキレスグループのCSR重要テーマごとに活動とその目標を定め、取り組みを行っています。主なテーマとしては、半導体シリコンウエハー搬送ケースのリユース事業をメインビジネスに置き、プラスチックの廃棄削減を推進しています。台湾は半導体一大製造拠点として世界に知られており、世界各国で製造された半導体シリコンウエハーは台湾に移送された後、ここで追加加工が施されます。その移送時に使用されたウエハー搬送ケースを阿基里斯先進科技が回収、それらをクリーンルームで洗浄した後に各国の半導体関連顧客に再供給しています。現在は台湾だけにとどまらず世界3か国から使用済みケースを回収し、そして5か国の顧客にリユースケースを再供給し、世界規模のリユースネットワークを構築しています。その結果、2018年は年間約240トンの廃棄樹脂削減に貢献しました。



クリーンルームで洗浄されるウエハー搬送ケース



環境のために

地域および地球規模の環境保全は、シューズ、ゴム、プラスチック製品といった化学原材料による製品の製造を中心に事業展開するアキレスにとって、極めて重要な使命です。当社は事業活動が環境と深く関わっていることを認識し、環境負荷低減に努め持続可能な社会の発展に貢献します。

アキレスグループ環境方針

アキレスグループは、「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、シューズ、ゴム、プラスチック製品の製造、販売を主体に事業活動を推進しています。環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動するとともに、新たな価値を創り続けることで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。


1. 事業活動による環境への影響を的確に把握し、環境目標を定め、その実現を図ります。
2. 環境監査等により定期的に環境管理システムを見直し、継続的改善を図るとともに、環境汚染の予防を徹底します。
3. 環境に関する法令・条例・協定および会社方針・規則等を遵守します。
4. 事業活動を通じて、環境配慮型の商品開発、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進を行い、健全な環境の維持・向上に努めます。
5. 事業活動が環境に与える影響を全員が認識し、適切な行動が取れるよう教育・社内広報活動に努め、環境保全への意識向上を図ります。

環境マネジメントシステム

ISO 14001への取り組み

地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムISO 14001をツールとして活用し、その中で環境方針、環境目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりを推進し、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2018年度は、ISO 14001:2015

への移行・更新審査を受審し、観察事項として54件の指摘があったものの、大きな欠点はなく更新・登録されました。

 **P29 ISO 14001:2015登録事業場 JUSE-EG-661**
(2018年7月更新・登録)

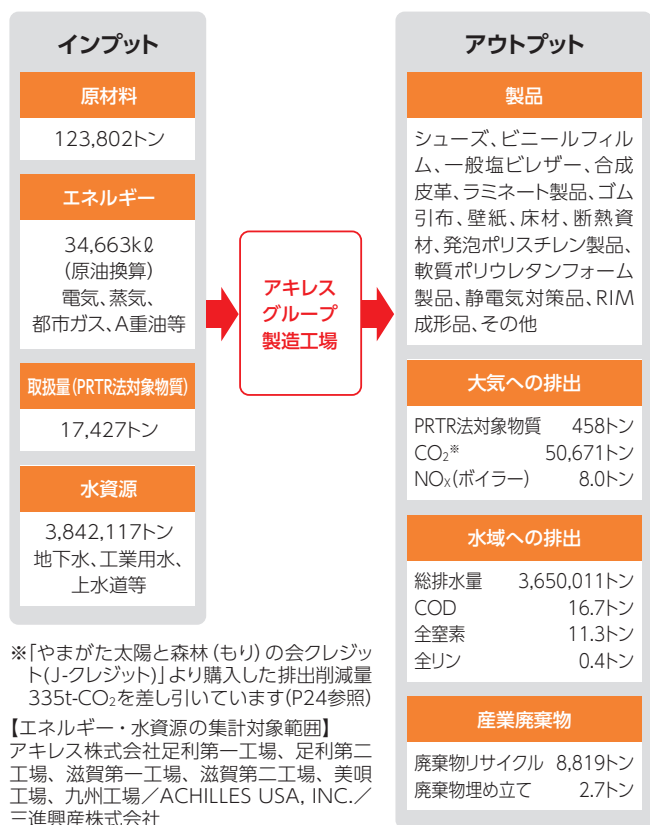
●2018年度活動結果概要・2019年度以降目標

項目	目標		2018年度実績	評価	2019年度以降目標	掲載ページ
	管理項目	値				
地球温暖化防止と省エネルギー	エネルギー原単位	前年度比、1%削減	前年度比、3.5%増加	×	前年度比、1%削減	P.15
3R活動による完全ゼロエミッション	廃棄物排出量 ※3R活動推進を基本とする	前年度比、3%削減	前年度比、4.4%増加	×	2017年度比、3%削減	P.15
	廃棄物の最終処分率	2020年度までに、0.1%未満を達成	0.03%	○	2020年度までに、0.1%未満を達成	
環境負荷物質の大気汚染防止	環境負荷物質排出量	2010年度比、24%削減(2020年度までに2010年度比、30%削減)	23.7%削減	×	2010年度比、27%削減(2020年度までに2010年度比、30%削減)	P.16
環境配慮(廃棄物削減、省エネなど)と環境管理の改善と環境配慮型の商品開発	環境配慮率* ※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産金額×100	前年度実績以下	前年度比、0.23%削減	○	前年度実績以下	—
	環境リスクの特定と対策立案	老朽化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減	環境負荷低減につながる設備の導入・改造などを計画・実施	○	老朽化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減	P.29
	環境配慮型製品の上市・販売	社内目標による	生分解性フィルム、高性能建築用断熱材等環境配慮型製品の販売目標、上市を達成	○	環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	P.9 P.10

環境負荷の全体像

アキレスグループでは、事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレスグループ製造工場の環境負荷の全体像を示します。

●マテリアルバランス



環境事故などに対する是正処置

2018年度は外部苦情などの環境事故の発生はありませんでした。小規模な環境トラブルが発生しましたが、いずれも外部への影響はなく、事業場内で対処し是正処置を完了しています。

また、2018年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て環境関連法規の基準値内でした。

意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

アキレスグループでは、新入社員研修、階層別研修などの実施や、専門知識の習得、資格取得にも積極的に取り組んでいます。

また、社内イントラネットで環境関連情報を発信し、環境保全活動の重要性を周知しています。

生物多様性への取り組み

生物多様性についての基本的な考え方

アキレスグループでは、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷をかけていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

日光杉並木オーナー制度

日光杉並木街道は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が日光街道・例幣使街道・西会津街道の三つの街道にまたがる壮大な杉の並木道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が当社足利工場のある足利市を通過していることもあり、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。

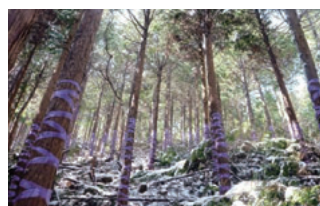


日光杉並木

琵琶湖森林づくり基金への寄附

当社が製造拠点を置く滋賀県には、重要な水源である琵琶湖があります。また、琵琶湖をとりまく森林は琵琶湖や淀川流域の重要な水源林であると同時に多様な生物の生息域でもあります。

滋賀県では、この重要な環境を保全すべく森林づくり事業を推進しており、当社はこの活動を支援しています。



琵琶湖周辺森林での間伐イメージ
(画像提供：滋賀県)

水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境影響のない状態で河川へ排出しています。なお、当社足利第二工場および滋賀第一工場、昆山阿基里斯人造皮有限公司では、工業用水の一部を循環使用しています。

「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では、滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」

に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺環境保全の重要性を再認識しています。2018年10月4日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢177人が参加しました。



水路での土嚢積訓練(滋賀県)

地球温暖化対策

温室効果ガス排出量の削減

アキレスグループが排出する温室効果ガスは、エネルギー使用(燃料、電気など)と、硬質ウレタンフォーム製造(フロン系をCO₂に換算)に伴う二酸化炭素排出が主体です。

2018年度は、積極的な環境設備投資による省エネ設備の導入と、硬質ウレタンフォームのノンフロン品種への切り替えを進める活動をしましたが、生産量増によりエネルギー使用量が増加し、温室効果ガス排出量は2017年度比約1.6%増加しました。

P29 温室効果ガス排出量推移

※「やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット(J-クレジット)」より購入した排出削減量335t-CO₂は差し引いていません(P24参照)

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

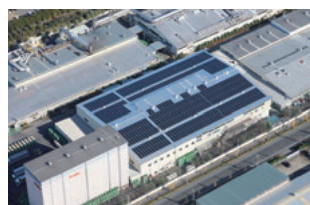


太陽光発電によるエネルギー創生

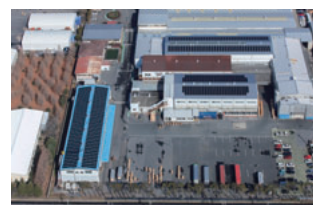
当社の太陽光発電設備容量は、2012年度の初回設備導入以後2回の設備増設を経て、足利・滋賀合計で1,535kWです。

2018年度の発電電力量約1,759千kWhは、CO₂排出量の削減効果約689t-CO₂となり、2018年度のエネルギー使用によるCO₂排出量の約1.5%に相当します。

P29 太陽光発電設備



アキレス株式会社足利第二工場
(2012年設置)



アキレス株式会社足利第二工場
(2014年設置)



アキレス株式会社滋賀第二工場
(2012年設置)



アキレス株式会社滋賀第二工場
(2014年設置)

物流の環境保全活動

二酸化炭素削減活動と排出量実績

2018年度の取り組みとして、モーダルシフト^{*1}の拡大展開、および積載率・大型車利用率の向上を推進し、輸送に関わるエネルギー原単位は約2.2%好転しましたが、生産量増により輸送トンキロ^{*2}は約2.4%増加した結果、CO₂排出量^{*3}は約0.1%増加にとどめることができました。

- ※1 貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることで、一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑えることができます
- ※2 輸送トンキロ=貨物重量[トン]×輸送距離[キロメートル]
- ※3 CO₂排出量(t-CO₂)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

P29 輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



省エネルギー

省エネルギー活動

アキレスグループでは、省エネルギー法に基づいた省エネルギー活動の重要性を認識し、環境負荷軽減の重点取り組み事項の一つとして全社を挙げて取り組んでいます。

エネルギー使用量(原油換算)

2018年度エネルギー使用量は、主なエネルギーである電気と燃料の使用量を低減することを目的に取り組みましたが、生産量増などに伴い前年度に対して約2.2%(0.6kkℓ/年)増加しました。

📖 P29 エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社



エネルギー原単位

2018年度は、「2017年度エネルギー原単位実績に対し、1%削減」を目標に設備の効率化改造や省エネ設備の導入に取り組んできましたが、製品構成の変化や小ロット生産の増加により、

2017年度に比べ約3.5%増加し、目標値には達しませんでした。今後も省エネルギー活動を継続し、前年度エネルギー原単位1%削減を推進していきます。

📖 P29 全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場



設備の改造・導入による使用エネルギー削減

2018年度は、高効率化機器への更新、ボイラーの更新、既存設備の効率稼働、照明のLED化などにより使用エネルギー削減に取り組みました。

📖 P29 設備の改造・導入の主な内容和使用エネルギー削減効果(原油換算値)

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



3R活動と完全ゼロエミッション

廃棄物の削減に向けて

循環型社会の実現を目指して3R*活動を推進しています。特に廃棄物の発生量自体の削減を目指す発生源対策(リデュース)を重視し根本原因を追究、廃棄物の発生抑制に注力しています。

*廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、再生資源としての再利用(リサイクル)の略語

廃棄物等*削減活動結果

2018年度は、「2017年度廃棄物排出量実績に対し3%削減」を目標に活動したものの、約359トン約4.4%増加となり未達という結果となりました。生産量の増加や生産構成の変化が原因と考えられます。今後は、既存のリサイクルフローを見直し、廃棄物の分別・選別の徹底、有価物化や廃棄物の再製品化等を推進し、生産量の増加に対していかにして廃棄物発生量を抑制するかを課題とし、廃棄物の削減に注力していきます。

📖 P30 廃棄物等総排出量

*廃棄物等：産業廃棄物と再資源化物を含めたものです

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



最終処分量状況

2018年度は、「完全ゼロエミッション(最終処分率*0.1%未満)を2020年度までに達成」を目標に活動した結果、最終処分率は約0.03%(約2.7トン)となり、2017年度の0.03%に引き続き、完全ゼロエミッションを達成しました。

今後も完全ゼロエミッションの継続を目指し、分別・選別のさらなる徹底およびリサイクルに取り組んでいきます。

📖 P30 最終処分量および最終処分率

*最終処分率(%) = 最終処分量/総排出量 × 100

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場



大気汚染防止

環境負荷物質の大気排出削減目標

アキレスグループは、「環境負荷物質の大気汚染防止」を全製造部門の共通テーマとしています。中長期目標としては「環境負荷物質の大気排出量を2010年度に対し、2020年度までに30%削減」を掲げ、労働安全衛生法、PRTR*法および大気汚染防止法に基づき、大気排出量の計画的な管理・削減に取り組んでいます。

※Pollutant Release and Transfer Register：有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み

PRTR法第一種指定化学物質削減

PRTR法に則り、該当物質の排出量などを把握した結果、2018年度のPRTR法第一種指定化学物質の年間排出量は約443トン（2010年度比約34.9%削減）、年間移動量は約250トン（同約35.9%増加）となり、年間の排出量・移動量は約693トン（同約20.0%削減）となりました。

P30 PRTR法対象化学物質の排出量・移動量

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場／アキレスマリン株式会社

PRTR法対象化学物質の排出量・移動量

約20%
削減
(2010年度比)

VOC大気排出量削減

PRTR法対象物質を含むVOC*物質の中で特に大気への排出量の多い5物質（DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル）を「環境負荷物質」と定め、全製造部門でVOC物質から非VOC物質の代替物質への移行や排煙処理装置（RTO）導入による大気排出量の削減を推進しています。

2018年は、2010年度比24%削減を目標に取り組んだ結果、23.7%削減となり目標未達成となりました。

P30 環境負荷5物質の大気排出量

※Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物の略称。空气中に揮発する性質のある有機化合物

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場／アキレスマリン株式会社

環境負荷物質の大気排出量

約24%
削減
(2010年度比)



社会と共に

アキレスグループは製品やサービスを通じて、より豊かで快適な社会づくりに貢献することを目指しています。また、さまざまなステークホルダーとの対話を通して取り組むべき課題を特定し、その対応に努めることで、社会の持続的発展に貢献したいと考えています。そして「アキレス調達基本方針」を定め、法令遵守や人権尊重などを含む企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広める努力を行っています。

品質への取り組み

品質への考え方とマネジメントシステム

アキレスグループでは、「製品の安全性と品質の確保」を全従業員が徹底するよう、「アキレス行動指針」を定めています。またお客様のニーズや市場動向を的確に捉え、お客様に満足していただける製品・サービスを提供する仕組みの基準として、全事業部で品質マネジメントシステムの国際規格(ISO 9001)を取得し運用しています。そして「品質マニュアル」で、各事業部の事業部長が品質保証の責任者として品質目標を設定し、安全で安心な製品・サービスの提供に努めることを定めています。また品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。

アキレスグループ品質基本方針

当社は、「社会との共生」=「顧客起点」の企業理念に基づき、顧客や消費者の立場に立って顧客満足を得られる製品を提供すると共に、製品の安全性確保や関連する法令等を遵守し、社会的責任を果たす為に下記の基本方針を定めます。

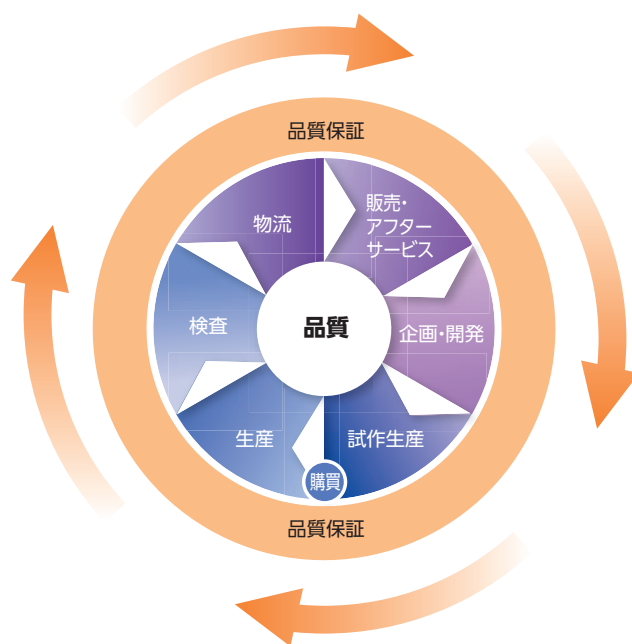
1. 全員が市場の声に耳を傾け、顧客のニーズに応えた魅力ある製品・サービスを提供する。 **【顧客満足の向上】**
2. 使用時の安全性確保は製品の品質保証の中でも重要事項である事を認識し、製品の設計、製造、販売など全工程にわたって製品安全の確保に努める。
【製品安全の確保】
3. 製品に係わる法令及び当社が同意した規格、顧客基準を遵守する。 **【法令遵守】**
4. 環境負荷低減に配慮した製品の設計、製造、販売活動を行う。 **【環境への配慮】**
5. これらの活動を効果的・効率的に行うために業務を見直し、継続的な改善を進める。 **【継続的改善】**

●ISO 9001 : 2015登録状況

登録組織名	登録年月	登録番号
アキレス(株)シューズ部門	2007年10月	JUSE-RA-2088
アキレス(株)プラスチック部門	2003年 4月	JUSE-RA-2090
アキレス(株)産業資材部門	2004年 2月	JUSE-RA-2089
ACHILLES USA, INC.	1998年 4月	33354

品質保証の仕組み

当社の品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。



企画・開発

- お客様からのご要望および安全・安心を考慮した製品設計を行っています。
- 素材および使用材料の安全性の検証をしています(使用禁止・制限化学物質、および健康に影響を与える物質を含まないことを確認)。
- 製品の加工時、施工時、および使用時を想定した要求物性への適合試験を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

購買

- 企画・開発、製造部門と連携し、使用する材料の安全性、環境性、および調達先の品質保証体制などを調査した後、購買品を選定しています。
- 調達先には「アキレス調達基本方針」の遵守を促すことで、企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広めています。また調達活動においていかなる違反行為にも加担しません。

生産

- 製品ごとに生産ラインに適した工程管理と検査方法を定め、効率生産と品質安定化を推進しています。
- 地球環境への負荷低減を図るため、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動や大気汚染防止などを推進しています。
- 製品の品質向上および技能レベル向上を目的に、全ての従業員に対し教育指導を実施しています。
- 製品ごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

販売・アフターサービス

- お客様からの当社製品・サービスへのご相談やお問い合わせは、販売担当部署でお受けする以外に「お客様相談室」でもお受けしています。いずれの窓口でも、お客様のお声に耳を傾け、迅速に対応するように努めています。
- 想定外の重大問題が予想される場合は、お客様の安全を第一に考え、情報開示と迅速な対応を行います。
- 環境対応設計製品に関しましては、お客様が類似他品との環境効果を容易に比較できるように努めています。

労働安全衛生・防火防災への取り組み

労働安全衛生の考え方とマネジメントシステム

アキレスグループ安全衛生方針

「安全の誓い」にうたわれている、「健康にして、安全の確立こそ、会社発展の源であり、私たちの明日への生活向上の基盤であります。私たちは、安全を確保し、人の和を築き、私たちの明日への活力を生み出すことを日々心新たに誓います。」のように、安全と健康の確保は事業活動の基本であり、安全で働きやすい職場環境を確保するために、次の事項を実施します。

1. 安全は全ての基本であり、アキレスグループ従業員一人ひとり、安全を全てに優先します。
2. 安全と心身の健康確保のため、全員参加で、安全衛生活動を積極的に推進します。
3. 安全衛生に関係する法令および会社方針・規則等を遵守します。
4. 安全衛生水準向上のため、労働安全衛生マネジメントシステム等を適切に活用し、継続的改善を図ります。
5. 日ごろより、5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)を欠かさず、安全で衛生的な職場環境を維持します。
6. 全ての従業員に対して、安全衛生の重要性を周知し、必要な教育・訓練を実施します。

主な安全衛生管理活動

安全衛生

当社では、各事業場で安全衛生委員会を設置し、従業員へは法・指針に基づいた安全衛生教育の実施、法に基づく各種有資格者の養成など、安全衛生体制を確立しています。また、作業・設備・化学物質のリスクアセスメントを実施し、結果に基づく改善を行い、本質安全化を図っています。



フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育(足利工場)

●安全衛生委員会委員割合

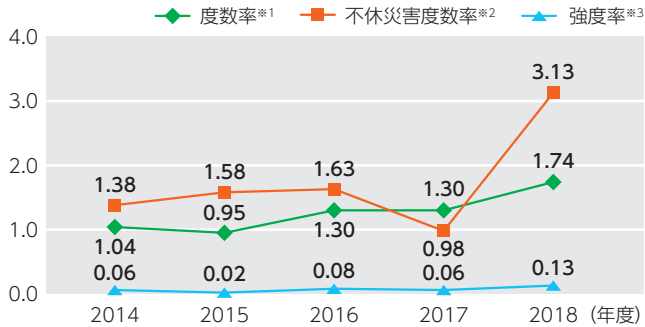
事業場	安全衛生委員(人)	従業員数(人)	従業員に対する安全衛生委員の割合(%)
本社	11	292	3.8
関西支社	6	79	7.6
足利第一工場	19	571	3.3
足利第二工場	16	267	6.0
シューズ物流センター 羽川物流課	7	54	13.0
滋賀第一工場	12	94	12.8
滋賀第二工場	14	121	11.6
合計	85	1,478	5.8

※2019年3月31日時点

労働災害の状況

2018年度の当社における労働災害の発生状況は、下記の通りです。2018年度の製造業（従業員1,000人以上）の平均度数率0.29、平均強度率0.03に対し、当社は、度数率1.74、強度率0.13でした。

●度数率・不労災害度数率・強度率(単体)



- ※1 労働災害(休業)による死傷者の発生頻度を示す指標
度数率=労働災害死傷者数÷延べ実労働時間数×1,000,000
- ※2 労働災害(不労)による傷病者の発生頻度を示す指標
不労災害度数率=不労災害者数÷延べ実労働時間数×1,000,000
- ※3 労働災害の発生頻度を示す指標
強度率=延べ労働損失日数÷延べ実労働時間数×1,000

安全意識の啓発

当社では、安全への意識高揚のため、年間行事として年2回の安全祈願(年初と全国安全週間初日)を実施し、年初には社員が各自記入した「安全の誓い」を各職場に掲示しています。また年間を通じて各種無災害運動(全国安全週間、年末年始、期末)や、交通安全運動を実施しています。2018年度は、未熟練労働者への対応として、新入社員と職場を異動した社員が「初心者マーク」を付け、当人の自覚を促すとともに、周囲からも配慮がされるようにしました。また交通安全への意識高揚のため、足利・滋賀地区において、所轄の警察署の協力により交通安全講話を実施しました。



安全祈願(足利工場)

健康管理

当社では、定期健康診断および特殊健康診断およびストレスチェックを実施し、結果に応じて産業医・看護師による事後対応の指導を実施しています。健康診断結果以外にも社員の心と身体の悩みに対して、産業医などによるメンタルヘルスケア、健康相談・指導を実施しています。また、THP(トータル・ヘルスプロモーション・プラン)推進活動として、各種健康増進イベントへの参加を促進しています。



健康づくり講演会(足利市)



健康づくり実践教室(足利市)

防火・防災への取り組み

アキレスグループ防火・防災基本方針

防火・防災は企業の基本管理項目であり、火災発生や地震に代表される自然災害を被ると、それまでの状況が一変して会社存亡の危機に直面することがあります。また、地域住民に多大な迷惑をかけ社会公共の福祉の増進にも反します。

アキレスでは、日頃から緊急事態に備え、身体及び財産を保護する予防措置を講じ、災害発生を未然に防止すると共に、万一発生した場合の人的・物的被害を最小限に抑えることに努めています。

総合防火・防災訓練

当社では、各地区で防火・防災委員会を設け、各事業場においては、防火・防災意識の啓発・高揚および防火活動に関する技術の習得を目的とした、総合防火・防災訓練を毎年定期的実施しています(製造部門社内火災予防運動は年3回実施、本社・関西支社防災訓練は年1回以上実施)。

2018年度は足利第一工場において、所轄の消防署との連携で総合防災訓練を実施しました。訓練では、震度6強を想定した、初動対応、通報、避難、安否確認訓練、負傷者の救出・手当の訓練などを実施しました。また消防署の協力により煙体験訓練を実施しました。



足利第一工場での総合防災訓練

心肺蘇生法講習会

2018年度は、足利第一工場および滋賀第二工場において、所轄の消防署による心肺蘇生法(人工呼吸、心臓マッサージ、AED機器の取扱訓練)の講習会を行いました。



滋賀地区での心肺蘇生訓練

食料などの備蓄

当社の各事業場では、震災などの有事に備え、食料や水などを備蓄しています。

火災事故への対策

2018年3月に滋賀第二工場で発生した火災事故に対して、火元となった事業所では出火原因を追究し、設備面、管理面での是正を進め、2019年8月に完全復旧しました。

また、水平展開として、火災の原因となった工場内配線の総点検を全工場で実施し、指摘箇所全ての改善を終え、各工場で改めて火災防止対策について検討し、計画的な導入を進めています。

お客様と共に

基本的な考え方

当社は「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。また、お客様の顕在的・潜在的ニーズを把握するため、お客様との対話の機会を大切に考えています。その役割を担う窓口の一つとして「お客様相談室」を設けています。

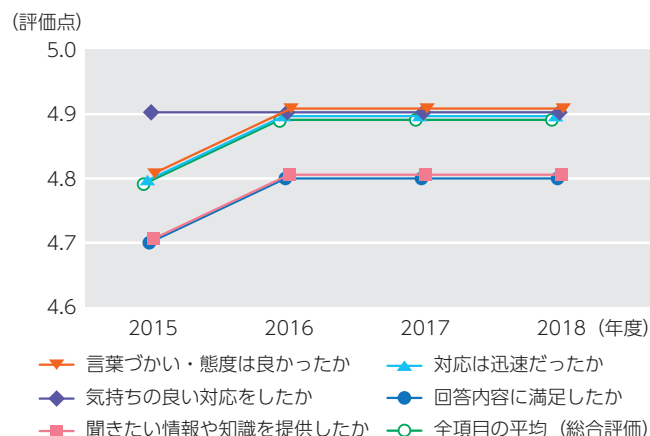
対応品質向上への取り組み

お客様相談室では2018年度は「お問い合わせ」と「ご意見」を合わせて、4,700件のお電話やメールなどをいただきました。

また、お客様相談室では、対応品質向上に向け、2012年度より、お客様アンケートによる対応品質評価の把握と改善活動を行っています。アンケートでは、①言葉づかいや態度②気持ちの良さ③情報や商品知識の提供④迅速さ⑤満足度——の5項目を5段階で評価していただいています。

2012年度の全体の評価点は4.5でしたが、毎月度、担当者別・項目別の点数を確認し合い、お互いに問題点を指摘し合いながら改善を重ね、2017年度は全体で4.9まで上がりました。2018年度の全体の評価点も4.9でしたが、メンバー2名の交代があったことから、お客様対応の技術が簡単に身に付くものではないことを再認識し、部員全員で日々の対応業務の基本の徹底を図り、また、改善点を見つけ出し、そして指導も適切に重ねながら、対応品質の向上に取り組んでいます。

●お客様アンケートによる対応品質評価の推移



大学生への啓発活動

当社は、消費者課題に取り組んでいるACAP*に所属しています。この活動を通じて、立正大学と大東文化大学の2校で、「企業におけるお客様相談室の役割」「お客様の声を製品やサービスの改善に生かす取り組み」などをテーマとして、講演を行いました。間もなく社会人になる大学生に向けて、企業人の立場から、また

一消費者の立場から、持続可能な消費活動のあり方と必要性などをお話ししました。

※ACAP：消費者関連専門家会議。
(約600社が参加)
<http://www.acap.or.jp/>



立正大学での講演(東京都品川区)

お客様とのコミュニケーション強化

お客様との距離を近くし、接点を増やすための取り組みも進めています。

特にシューズのお問い合わせが多いことをふまえ、「シューフィッター」(足と靴の専門資格)の取得を進め、2019年3月末時点では、お客様相談室の従業員4人のうち3人が「シューフィッター」となりました。その知識を活用しながら、単なるクレームやお問い合わせへの対応だけでなく、お客様からの靴に関連するさまざまなお悩みなどへの相談にもあたっています。シューフィッターとしての対応は、他社との大きな差別化にもつながっています。

そして、以前から実施している「足育(そくいく)相談室」の活動も、さらに活性化させています。当社本社ショールームに来社いただいて「足型測定とカウンセリング」を行うサービスと、小中学校などに出向いての足と靴に関する「出前講座」も、引き続き好評をいただいています。また、最近では、歩くことと健康とのつながりがさらに重要視されていることもあり、シニア世代向けの出前講座のリクエストも増えてきています。

2018年度は「出前講座」を40件実施し、聴講者数は2,360人でした。2014年度のスタート時からの累計では、実施件数が167件、聴講者数は8,614人となっています。

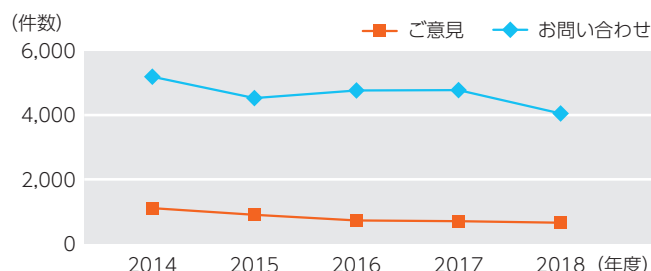


埼玉県深谷市立豊里中学校
足と靴に関する出前講座



埼玉県行田市保健センター
シニア向け講座

●お客様相談室に寄せられるお問い合わせとご意見の件数推移



株主様と共に

基本的な考え方

当社は、企業価値の向上に努め、存在意義を示し、株主・投資家の皆様のご期待に応える会社を目指しています。株主・投資家の皆様に対しては、法令を遵守した方法で、タイムリーに、公正で正確な情報を分かりやすく開示することに努めています。そして、情報開示を含むIR活動を通して、株主・投資家の皆様との対話を行っています。

報告書・中間報告書

当社ではホームページでの情報開示と併せて、事業概要を分かりやすくとりまとめた報告書を株主の皆様へ半年ごとに年2回お送りしています。報告書では、アキレスの代表取締役社長からの事業環境および業績概要の説明に加え、連結財務諸表、各事業の業績・新商品情報、ならびにアキレスグループのトピックスなどをご案内しています。

また当社では、毎年6月に定時株主総会を開催し、株主の皆様と直接対話を行っています。株主総会終了後には、新商品・新技術をご紹介します、株主の皆様から直接ご意見をうかがう機会を設けています。



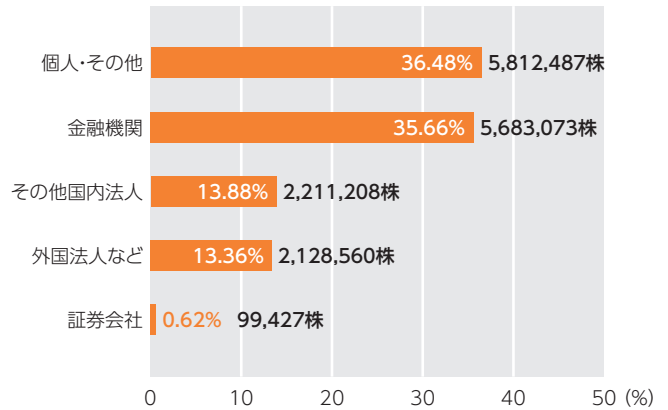
株主の皆様への報告書

株式の状況

●株式の総数など ※2019年3月31日現在

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済み株式の総数	16,762,714株
株主数	11,946人

●株式分布状況 ※2019年3月31日現在



※上記のほか、当社保有の自己株式827,959株があります

取引先様と共に

基本的な考え方

アキレスグループは「企業行動憲章」に従い、法令遵守はもとより倫理的な行動に努め、公正かつ自由な取引を通じてお取引先様と長期的な信頼関係を構築し、相互協力により共存共栄の

関係を図っております。また、「アキレス調達基本方針」を定め、環境に配慮した持続可能な調達と法令遵守ならびに人権尊重などへの取り組みをサプライチェーン全体に広めています。

アキレス調達基本方針

基本方針

1. 公正・透明な取引
2. 企業倫理および関連法令の遵守
3. 環境への配慮、保安防災への取り組み
4. 人権尊重、児童労働・強制労働の禁止、労働・安全衛生の配慮
5. 製品・サービスの安全性・品質の確保
6. 個人情報・製品情報を含む情報セキュリティの維持・推進
7. お取引先様との共存共栄
8. お取引先様の知的財産・資産等の適正管理
9. 紛争鉱物*問題への対応

お取引先様の選定方針

1. 経営状態が健全であること。
2. 安定供給と生産変動への柔軟な対応力があること。
3. 左記基本方針を含め社会的要請に配慮する取り組みを行っていること。
4. 価格・品質・納期・技術力・サービスのレベルが適正であること。

*その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長、あるいは人権侵害、労働問題などに密接に関連している鉱物。2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」において、コンゴ民主共和国および隣国において産出される鉱物のうち、タンタル、錳、金、タングステン、そのほか国務省が判断する鉱物が紛争鉱物とされました。また米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合は米国証券取引委員会(SEC)に報告することが義務付けられました。

CSR調達の取り組み

当社では、サプライチェーン全体のCSR活動の実効性が、さらに向上することを目指しています。年に1回、「CSR調達アンケート」を主要取引先様に実施し、調達基本方針の遵守のチェックを行っています。

アンケートからは、「調達方針説明会」をはじめとする当社の啓蒙活動により、お取引先様のCSR活動への取り組み拡充がうかがえました。引き続きサプライチェーン全体の品質向上に努めます。



CSR調達アンケート



調達方針説明会(東京本社)

従業員と共に

基本的な考え方

アキレスグループは、従業員を重要なステークホルダーと位置づけています。「企業行動憲章」で「従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、安全と健康に配慮した働きやすい職場環境を整備します」と定め、その実践として必要な制度や活動内容を決定し推進しています。その根幹にある考え方は、従業員との「共存共栄」です。

人権尊重・公平

アキレスグループは、法のもとでの雇用関係を遵守し、違法労働や児童労働、性的差別、人種差別、宗教的差別などの人権侵害を行いません。またこれらの行為に加担しません。「アキレス行動指針」において、人権尊重を含む倫理的行動および遵法をグループの全従業員が誓約しています。

アキレスグループでは、全ての従業員に対し公平・均等に機会を与えるように努めています。パワーハラスメント・セクシャルハラスメントを禁止し、社内外に通報窓口を設けています。

雇用の状況

アキレスグループでは、安定した雇用の維持と雇用機会の拡大を図るため、計画的な雇用に努め、均等な雇用機会を提供しています。

●従業員数(連結) ※2019年3月31日現在

男性 1,358人	女性 319人	合計 1,677人
-----------	---------	-----------

●従業員基本データ(単体) ※2019年3月31日現在

平均年齢	男性 40.9歳	女性 43.5歳	全体 41.3歳
勤続年数	男性 19.0年	女性 22.5年	全体 19.6年
平均年収	約585万円		

●人材(単体) ※2019年3月31日現在

役員(執行役員を含む)	男性 24人	女性 1人	合計 25人
部長職	男性 38人	女性 0人	合計 38人
課長職	男性 207人	女性 4人	合計 211人

●定年退職者再雇用制度(単体) ※2019年3月31日現在

2018年度制度利用者	149人
-------------	------

個人情報保護

アキレスグループでは、個人情報管理規定を設け、そのうち「従業員の個人情報管理」に関する部分を独立した条文として、従業員の個人情報を保護・管理しています。また「従業員の個人情報」については、社内システム上で複数階層のセキュリティを設定し、アクセス可能な人員を限定しています。

福利厚生

当社では、各地の事業場所在地において、独身寮、社宅などの施設および、社員持株制度などによる社員生活安定の支援を行っています。また少子高齢化社会における仕事と家庭の両立支援策として、育児・介護休業制度などを設けています。

●育児休業制度(単体)

2018年度制度利用者	男性 0人	女性 9人	合計 9人
-------------	-------	-------	-------

●介護休業制度(単体)

2018年度制度利用者	0人
-------------	----

●年間平均総実労働時間(単体)

2018年度実績	1,978.1時間
----------	-----------

●平均有給休暇取得日数(単体)

2018年度実績	8.7日(47.5%)
----------	-------------



独身寮/本社

労働組合

労使関係

当社には、アキレス労働組合とアキレス本社労働組合の2つの労組があります。共に労使の相互信頼をベースに、会社方針に則り会社発展に貢献することで、従業員の生活維持・向上につなげていくとの基本方針のもと、充実した労使のコミュニケーションを図り、労使協調した取り組みを進めています。

アキレス労働組合には、製造部門で働く従業員(役員、管理職を除く)875人*が加入しています。また、アキレス本社労働組合には、営業部門で働く従業員(役員、管理職を除く)181人*が加入しています。

*2019年7月1日時点の加入員数

労働組合との協議状況

当社では、年2回の給与および賞与の協議と関連し、年3回の運営協議会(5月、9月、11月)を定期的開催しているほか、人事諸制度の変更や福利厚生に関する内容など労働条件に関する変更や新設などは、労使で協議し、合意の上で実施しています。

また、安全衛生、環境、資格制度、再雇用など、労使双方による委員会で検討し、公平かつ適正な運用を図っています。

【主な労使協議】

運営協議会(年3回)／本部労使協議(原則月1回とし、都度実施)／支部労使協議(原則月1回とし、都度実施)／支部協議(都度実施)

労使共催行事

当社では、健康増進・コミュニケーション向上などを目的とした労使共催の行事により、労使間の交流を図っています。新入社員を迎えるソフトボール大会・ボウリング大会は定例行事となり、所属部署の枠を超えて従業員同士の親睦を深めるコミュニケーションの場となっています。



赤い羽根共同募金活動
(足利地区)



新入社員歓迎ボウリング大会
(東京本社)



みかも山ウォーク・いちご狩り
(足利地区)



神戸布引の滝・南京町ウォークラリー
(滋賀地区)



ハツラツプラン55才セミナー
(足利地区)



ソフトボール大会
(足利地区)

健康経営

アキレスグループでは、健康経営に取り組んでいます。企業の社会的責任として、従業員の健康衛生管理はもちろんのこと、各自が生活習慣上の問題に気付き改め、健康な長寿を目指すよう、セミナーなどを通じて啓蒙しています。



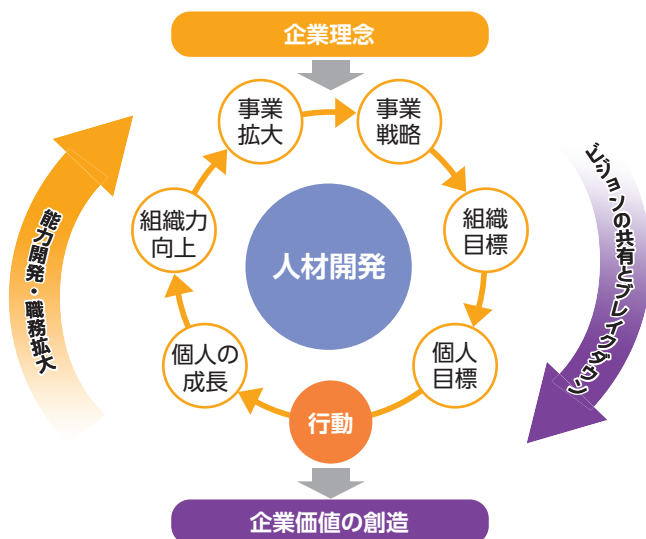
健康セミナーの風景(東京本社)

人材開発

変化の激しい社会環境の中で生き残っていくためには、社員一人ひとりの人間力の向上を図り、企業価値を次々と創造し続ける集団になることが必要です。そのために、当社では人材開発を積極的に推進しています。「人」という経営資源のパフォーマンスを向上させるとともに、一人ひとりの成果を組織成果に結び付けることで組織全体を活性化し、社員がその能力を存分に発揮しながら生き生きと働ける環境を創り出しています。アキレスグループは、社員一人ひとりの人間力の育成とそれを生かせる組織づくりに取り組んでいます。

人材開発基本方針

1. 明確なビジョンを描き、その達成のために適切なリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
2. リーダーの描くビジョンを実現するため自ら問題を発掘してその解決を図り、仕事の付加価値を高めることのできる人材を育成する。



人材開発体系

当社の人材開発は「人材開発基本方針」のもと、社会に必要とされる企業であり続けるために、企業価値の持続的向上に資する幅広い知識・経験と複数の専門性を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。

OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=業務内指導)

当社の人材開発の基本はOJTです。上司と連携して業務目標を決め、課題達成にチャレンジし、適時にレビューを行います。コミュニケーションを通して気付きを促し視座を高めていきます。

Off-JT(オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=集合研修)

当社では、各自の役割に応じて求められるスキルや専門知識の習得は、集合研修で支援しています。特に、グローバル化への対応は急務であり、語学力に加え、異文化への理解を深める機会を研修を通じて提供することで、実践力を高める育成に努めています。なお、研修拠点として研修センターを建設しました。



グローバル研修風景(東京本社)



研修センター(足利工場)

SD(セルフディベロップメント=自己啓発)

当社では、社員の能力向上意欲に敬意を表し、補助金支給制度を設けて通信研修を奨励しています。これにより一人ひとりが必要と考える科目を選択し、自分の能力向上につなげています。

●教育研修体系(単体)

	役員	事業部長	部長	課長	各階層	新人
幹部育成						
グローバル						
管理職						
階層別						
コンプライアンス						
専門性						
OJT支援						
自己啓発						

●2018年度の主な集合研修

研修区分	研修数	参加者数
幹部育成研修	28回	596人
グローバル研修	24回	576人
管理職研修	7回	74人
一般職研修(うち、新人研修)	50回 (6回)	1,097人 (129人)
コンプライアンス研修*	3回	647人
専門性向上研修	28回	805人
通信教育	1回	179人
安全衛生研修	7回	383人
災害対応研修	1回	32人

※コンプライアンス研修はアキレス国内グループ全従業員の実績です。ほかの研修はアキレス株式会社の従業員の実績です。なお、参加者数は、研修区分内の各研修テーマに参加した従業員数の合計です

地域社会と共に

地域社会の一員としての取り組み

アキレスグループは、CSR重要テーマの一つとして、地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献することに取り組んでいます。当社では、拠点を置く地域において、教育機関の見学・研修の受け入れや防災訓練への参加、各種イベントへの協賛など、地域団体と共同で地域活性化に協力しています。

やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット【山形県】

当社では、2017年度に引き続き、山形県が実施したCO₂削減量売却への入札募集に応募し、335t-CO₂を購入しました。

山形県では、県民が家庭などに設置した太陽光発電設備または木質バイオマス燃焼機器により削減された温室効果ガスを集約し、政府のJ-クレジット制度*の認定を受け、CO₂削減量として入札を通じて企業などへ販売を行っています。

当社グループは山形県に拠点があり、地域社会への貢献とCO₂削減活動の一環として、当入札に応募しています。購入したCO₂削減量は当社グループの事業活動によるCO₂総排出量から差し引き、当報告書に記載しています。

※J-クレジット制度：再エネ機器の導入などによるCO₂の削減量などを政府が認証する制度。認証を経ることにより市場での取引が可能となります。単位：t-CO₂

山形県庁での契約締結式
(山形県山形市)。
吉村 美栄子山形県知事(右)と
当社代表取締役社長 伊藤 守(左)



盛岡・北上川ゴムボート川下り大会【岩手県】

2018年7月29日「第42回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」が開催され、671艇、1,342人が出走し、670艇、1,340人が完走されました。

この大会は、完走艇数と参加者数で世界ギネス記録を持つ大会です。参加者は、レースでゴムボートを安全かつ効率良く、そして楽しく操船する技術を競い合うと同時に、何よりも北上川流域の美しい自然を満喫していました。

当社を含めた多くの団体や個人が、地域経済の活性化に役立つイベントとして、支援を行っています。当社は大会ゼッケンのスポンサーを担ったほか、入賞景品の提供や、更衣室用として当社製エアテントを貸し出すことを通じて、本大会をサポートしました。



第42回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会風景
(画像提供：株式会社ハイ・ジャンクション)

海洋プラスチックごみ問題への取り組み

当社は、生分解性プラスチックや、植物由来原料を使った環境対応型フィルムの普及促進を目指しています。当社は、2019年1月に、経済産業省主導のプラットフォーム「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(通称：CLOMA)*」に参加し、「普及促進部会」や「技術部会」などを通じて、プラスチックごみ問題の解決に取り組んでいます。

※クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(通称：CLOMA)：地球規模の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向けたプラットフォーム。プラスチック製品の持続可能な使用や、代替素材の開発・導入を推進し、イノベーションを加速するため、159社・団体が参加し、2019年1月18日に設立。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)の実現を視野に入れて、活動をしています



<http://www.jemai.or.jp/cloma/>

足利花火大会【栃木県】

2018年8月4日に足利商工会議所主催による「第104回足利花火大会」が開催され、アキレスグループも地元企業として協賛しました。同花火大会は1903年に始まった歴史ある大会で、今回は、54万5,000人ももの観客でにぎわいました。2万5,000発もの花火が打ち上げられ、夜空が明るく染まるたびに観客から大きな歓声が上がっていました。



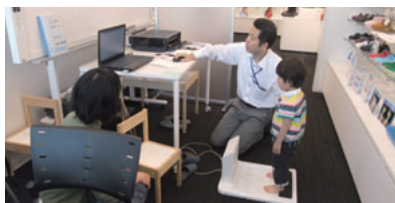
第104回足利花火大会(画像提供：足利商工会議所)

足育(そくいく)活動【東京都・神奈川県】

当社本社ショールームでは、毎週火～金曜日の13:00～17:00に「足型測定とカウンセリング」を実施しています(完全予約制)。また、全国各地の大型ショッピングセンター特設会場でも足育(そくいく)活動を実施するほか、ホームページの受付窓口などからの申し込みに応じて小中学校などで出前講座を開き、足に合った靴の選び方、正しい靴の履き方などの情報を提供しています。

また、当社では、園児、小学生を対象とした「走ることへの楽しさ・親子での触れ合いの輪を広げる」イベントとして、「瞬足チャレンジ」を開催しています。このイベントは「瞬足」オリジナルコーナー走の大会です。この大会では、国連WFP*の食糧支援を応援しています。参加1人につき給食1日分(30円)が寄附され、途上国での子どもたちの学校給食支援に充てられます。

※国連WFP：国際連合世界食糧計画(United Nations World Food Programmeの略称)は、食糧欠乏国への食糧援助と天災などの被災国に対する緊急援助を行うなど、経済・社会の開発を促進する国際連合の機関



当社本社ショールームでの足型測定とカウンセリングの風景(東京都新宿区)

エミフルMASAKIでの「足育(そくいく)」相談の風景
(愛媛県伊予郡松前町)



「第7回 瞬足チャレンジ2019」でのレース風景(東京都品川区)

グリーン作戦【栃木県】

当社の足利工場では、定期的に事業場近隣の清掃活動を行っています。



足利工場周辺の清掃活動
(栃木県足利市)



マネジメントについて

当社の経営の基本方針は、「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を實踐し、持続的に企業価値を高めていくことにあり、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに存在意義を示し、ご期待にお応えしていく会社になることを目指しています。この経営方針を実現するために、「経営の効率化」「経営の意思決定の迅速化」および「経営の公正性・透明性の確保」と併せて「経営のチェック機能の充実」を重要課題としています。また、経営の公正性と透明性を高めるために、積極的かつ迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行うなど幅広い情報開示にも努めています。

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

当社においては、取締役会が業務執行状況を監督し、業務執行については、各部門を担当する取締役もしくは部門長に責任と権限を与え、経営の効率的な運用を図っています。

また、2人の社外取締役が客観的・中立的観点から取締役会を通じて経営の監督機能を発揮するとともに、2人の社外監査役（うち1人は女性）が取締役会に出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を社外の視点でチェックしており、十分に経営の監視機能を発揮しています。

さらに、指名・報酬などに係わる取締役会の機能の独立性・客観性を高めるため、ガバナンス委員会（社内取締役2人、社外取締役2人、社外監査役1人の社外役員を過半数として構成）を開催し、取締役会に助言することとしています。

取締役会

経営の基本方針、法令で定められた事項、そのほか経営に関する重要事項の審議・決定を行うとともに、取締役の業務執行状況の監督を行っています。

経営会議

意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るために、取締役会に付議すべき事項の審議を行うほか、取締役会の決定方針に基づく具体的な執行方針やそのほか経営に関する重要な業務執行についての審議・決定を行っています。

監査役会・内部監査・会計監査

監査役会は2人の社外監査役を含む3人の監査役で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査の方針・業務分担に従い、取締役会などへの出席、稟議書などの重要な資料の閲覧、子会社を含む事業所に赴くことなどにより、取締役の職務執行について監査しています。

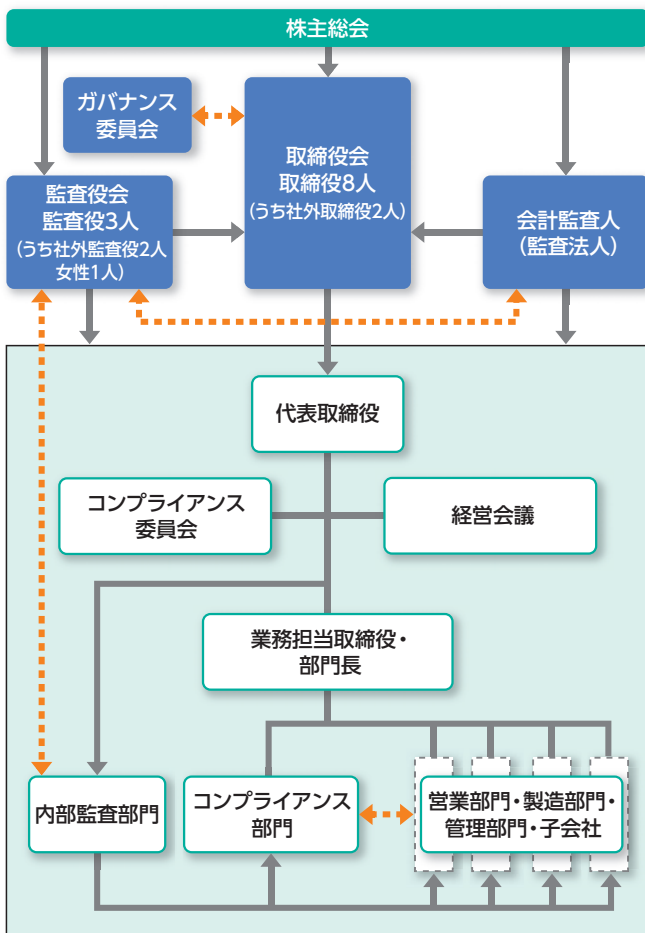
内部監査部門は、法令遵守状況を定期的および必要に応じ確認しています。また、監査役との連携を図り、監査役の効果的な監査業務の遂行に協力しています。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、監査を受けています。また、監査報告会を開催し、監査役会は会計監査人から監査実施状況、監査実施結果などの説明を受けるとともに、会計上と内部統制上の諸問題について助言を得ています。

内部統制システム

当社では、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、そのほか株式会社の業務ならびに当該株式会社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制について、「内部統制の基本方針」を定めています。この方針に基づき金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制について、当社および連結子会社における整備・運用の評価を行い、その結果を内部統制報告書として公表しています。

●コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

基本的な考え方

アキレスグループでは、コンプライアンスを遵守し企業倫理を尊重する企業活動を基本原則として「企業行動憲章」を制定し、さらに具体的な基準として「行動規範」を定めています。役員および嘱託・パートタイマーなどの臨時従業員を含む全ての従業員に対し

て、「企業行動憲章」を理解し「行動規範」を守ることを求めています。SDGsをはじめ社会的要請の変化に応じて、2019年4月に「企業行動憲章」ならびに「行動規範」を改定しました。

企業行動憲章

アキレスグループは、社会に有益な付加価値を創出し、自律的で責任ある行動を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。そのためアキレスグループは、国の内外において次の原則に基づき、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、高い倫理観をもって社会的責任を果たしてまいります。

(持続可能な経済成長と社会的課題の解決)

1. イノベーションを通じて社会に有益で安全な製品・サービスを開発、提供し、持続可能な経済成長と社会的課題の解決に努め、お客様の真の満足と信頼を獲得します。

(公正な事業慣行)

2. 公正かつ自由な競争ならびに適正な取引、責任ある調達を行います。また、政治、行政との健全な関係を保ちます。

(公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話)

3. 企業情報を積極的、効果的かつ公正に開示し、幅広いステークホルダーと建設的な対話を行い、企業価値の向上に努めます。

(人権の尊重)

4. すべての人々の人権を尊重する経営に努めます。

(消費者・顧客との信頼関係)

5. 消費者・顧客に対して、製品・サービスに関する適切な情報提供、誠実なコミュニケーションを行い、真の満足と信頼を獲得します。

(働き方の改革、職場環境の充実)

6. 従業員の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現し、安全と健康に配慮した働きやすい職場環境を整備します。

(環境問題への取り組み)

7. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動します。

(社会参画と発展への貢献)

8. 「良き企業市民」として、積極的に社会に参画し、その発展に貢献します。

(危機管理の徹底)

9. 市民生活や企業活動に脅威を与える反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、組織的な体制のもと、危機管理を徹底します。

(経営トップの役割と本憲章の徹底)

10. アキレスグループの役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築して社内、グループ企業に周知徹底を図ると共に、サプライチェーンにも本憲章の精神に基づく行動を促します。また、本憲章の精神に反し社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、アキレスグループの役員が率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たします。

コンプライアンス推進活動

2018年度の主な取り組みは以下の通りです。

①コンプライアンス研修の実施

- ・テーマ「契約(秘密保持、知的財産、契約範囲や管理など)」
- ・テーマ「独占禁止法(カルテルなど)」
- ・テーマ「下請法」
- ・テーマ「贈収賄防止」

②従業員アンケートによるリスク調査の実施

③その他法令などの改正に伴う規定の適宜見直しと従業員への周知



本社(東京都)でのコンプライアンス研修

通報・相談制度

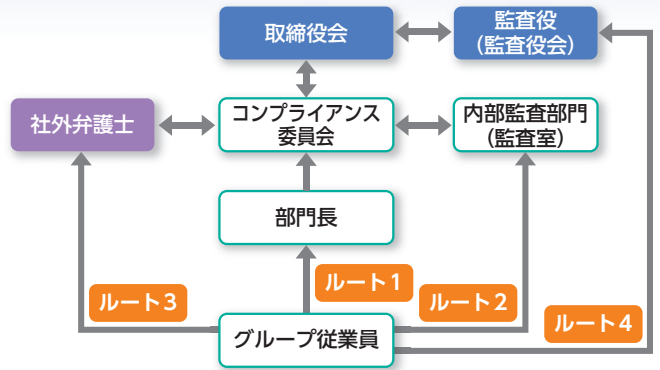
アキレスグループは、組織または個人による不正・違法・反倫理行為や「アキレス行動指針」に反する行為の発生、またはその恐れがあると判断したときに相談、あるいは通報することができる仕組みとしてホットライン(内部通報制度)を整備・運用しています。当社グループの取締役など経営層に関する事項を対象とした監査役直通の窓口を設けるなど通報窓口を複数設置することにより、違法行為などの早期発見と是正を図り、会社のリスクを最小限に抑えるよう努めています。また通報者が不利益な扱いを受けないことを社内規定で担保しています。

ハラスメントに関する相談や通報も、ホットラインで受け付けて相談・通報者が不利益な扱いを受けないよう、配慮を徹底し

ています。

ホットラインや不定期アンケートにより確認された人権侵害については、定期的に開催しているコンプライアンス委員会にて協議の上、適切な対策を実施しています。

●ホットラインの仕組み



CSRマネジメント

CSRの基本方針

アキレスグループは、社会の一員としてステークホルダーとの対話を通じて、社会的課題の解決に役立つ活動の拡大に努め、社会の持続的発展に貢献します。

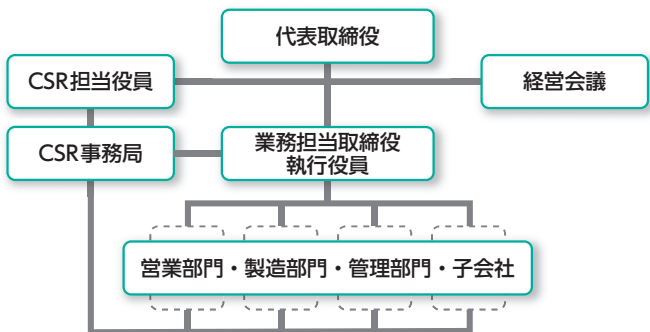
この方針のもと、7つの課題を「アキレスのCSR重要テーマ」と位置づけ事業活動を推進します。

CSR推進体制

当社は企業理念である「社会との共生」＝「顧客起点」の実践こそが、当社のCSR戦略と位置づけ、業務担当取締役および執行役員が率先して企業理念に資する活動を推進できるよう、CSR担当役員がサポートしています。

またCSR事務局は、コンプライアンス推進室と安全環境推進部が担い、CSR活動の支援および報告書の制作を行っています。

●CSR推進体制の仕組み



アキレスのステークホルダー

主なステークホルダー	アキレスグループの主な責任と課題	主な対話および情報開示の機会
お客様	<ul style="list-style-type: none"> お客様満足度の向上 安心・安全な製品・サービスの提供 製品の取扱方法などに関する適切な情報提供 お客様への迅速かつ適切な対応 お客様(個人)情報の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の営業活動(常時) お客様相談室(お電話・メール受付)の設置(営業時間内常時) ホームページ(常時) イベント(展示会など)の開催(随時) 「足育(そくいく)」相談会 「足育(そくいく)」相談室(足型測定と出前講座)
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> 適時・適切な情報開示 企業価値向上 議決権行使の尊重(株主総会) IR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ(常時) 決算短信の発行(年4回) 四半期報告書と有価証券報告書の発行(年4回) 株主様への報告書の発行(年2回) 定時株主総会の開催(年1回) 「アキレスのCSR」(CSR報告書)の発行(年1回)
取引先	<ul style="list-style-type: none"> 公正・公平な取引 オープンな取引機会 CSR推進への協力要請・支援 適切な情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の調達活動(常時) イベント(展示会など)の開催(随時) 情報交換会(随時) CSR調達アンケート
従業員	<ul style="list-style-type: none"> 人権の尊重 労働安全衛生への配慮 ワークライフバランスの促進 労使の相互信頼 	<ul style="list-style-type: none"> 労使協議会(随時) トップからのダイレクトコミュニケーション(随時) 集合研修(随時) 講演会の開催(随時) 社内報
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化や慣習の尊重 事業場での事故・災害防止 地域社会への貢献活動 環境負荷低減 法令遵守 納税 	<ul style="list-style-type: none"> 工場見学の実施(随時) ボランティア参加を含む社会貢献活動の実施(随時) 地域自治体との交流・意見交換(随時) ヒアリング対応・情報提供など(随時) 産学官での協働などを通じた対話・連携・支援(随時)

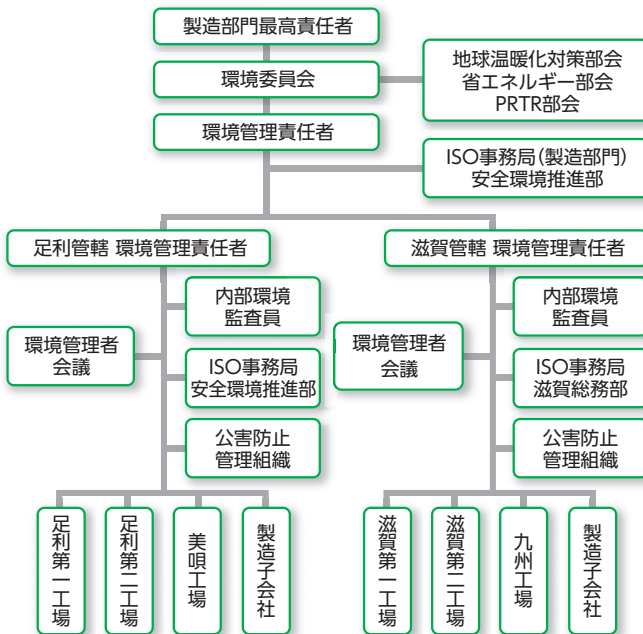
データ編(環境のために)

環境マネジメントシステム

●ISO 14001:2015登録事業場 JU5E-EG-661

■アキレス株式会社足利第一工場	2001年9月 拡大取得
■アキレス株式会社足利第二工場	2000年7月 認証取得
■アキレス株式会社滋賀第一工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社滋賀第二工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社美唄工場	2002年9月 拡大取得
■アキレス株式会社九州工場	2002年9月 拡大取得
■アキレスマリン株式会社	2001年9月 拡大取得
■アキレスウエルダー株式会社	2001年9月 拡大取得
■関東アキレスエアロン株式会社	2001年9月 拡大取得
■大阪アキレスエアロン株式会社滋賀営業所	2002年9月 拡大取得
■北海道アキレスエアロン株式会社	2002年9月 拡大取得

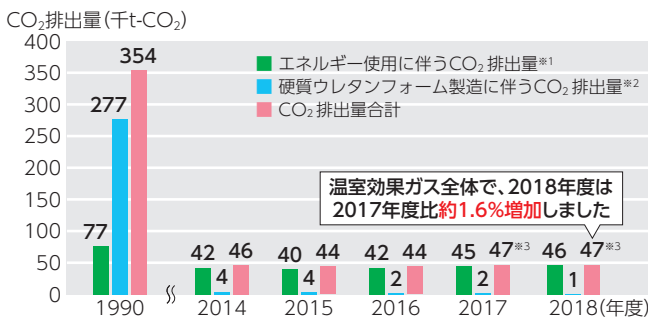
●環境管理推進組織



【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

地球温暖化対策

●温室効果ガス排出量推移



※1 エネルギー使用に伴うCO₂排出量は、事業活動に関わるエネルギー(燃料、電気など)に伴い発生するCO₂です。またCO₂排出量は、地球温暖化対策推進法(改正温対法:2006年4月施行)に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス(火力発電)使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています

※2 硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO₂排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO₂換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数(CO₂換算係数)は、IPCCの4次レポートから準用し、自主的に算出したものです

※3 「やまがた太陽と森林(もり)の会クレジット(J-クレジット)」より購入した排出削減量335t-CO₂は差し引いていません(P24参照)

【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

●輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

項目(単位)	2017年度	2018年度	前年度比
輸送トンキロ*1(千トンキロ)	82,547	84,534	102.4%
発生するCO ₂ の排出量(t-CO ₂)*2	10,713	10,727	100.1%
モーダルシフト*3率	17.4%	18.9%	1.5ポイント向上

※1 輸送トンキロ=貨物重量[トン]×輸送距離[キロメートル]

※2 CO₂の排出量(t-CO₂)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)

※3 モーダルシフト: 貨物輸送をトラックから鉄道や船に換えることで、一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑えることができます

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

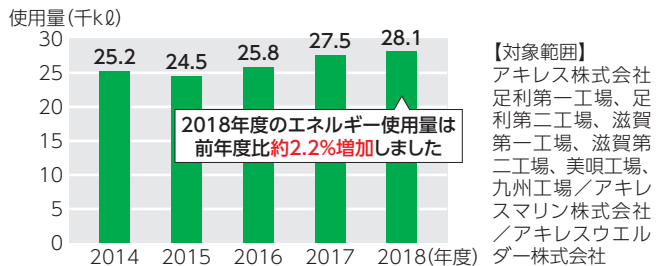
●太陽光発電設備

	設備容量(kW)	発電電力量(千kWh/年)	CO ₂ 削減量*(t-CO ₂ /年)
足利第二工場	529	628	204
滋賀第二工場	1,006	1,131	485
合計	1,535	1,759	689

※足利第二工場は東京電力、滋賀第二工場はエネットの電気事業者排出係数(2010年)を使用

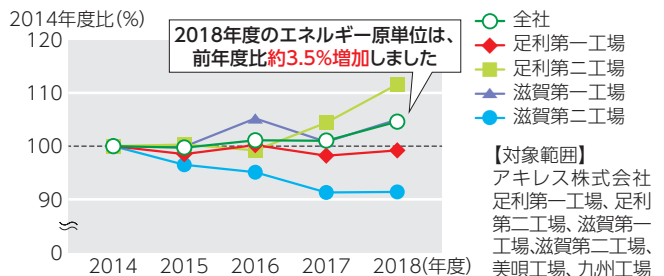
省エネルギー

●エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移



【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン株式会社/アキレスウエルダー株式会社

●全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移



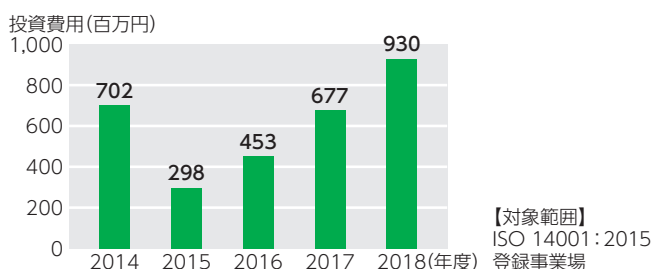
【対象範囲】アキレス株式会社足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場

●設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

内容	削減効果(kℓ)
配管・バルブなどの保温強化、蒸気漏れ防止	57
LED照明・HiFi蛍光灯の採用	57
ボイラーの更新	32
コンプレッサーの更新、エアー漏れ防止	25
トップランナー空調設備への更新	15
変電所での高効率変圧器への更新	11
その他(ポンプ・モーターのインバータ化など)	37
合計	234

【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

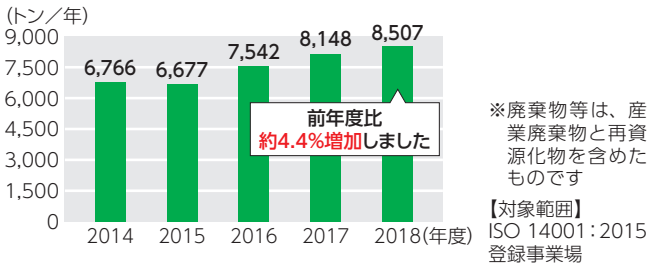
●年度別環境関連設備投資費用(過去5年間)



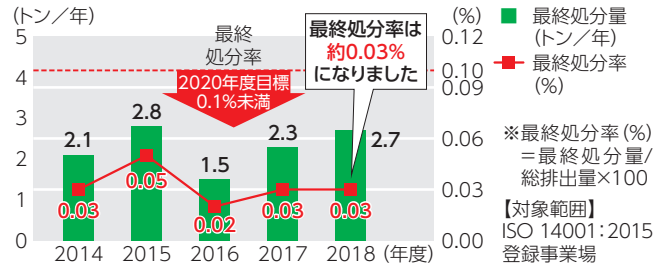
【対象範囲】ISO 14001:2015登録事業場

3R活動と完全ゼロエミッション

●廃棄物等*総排出量

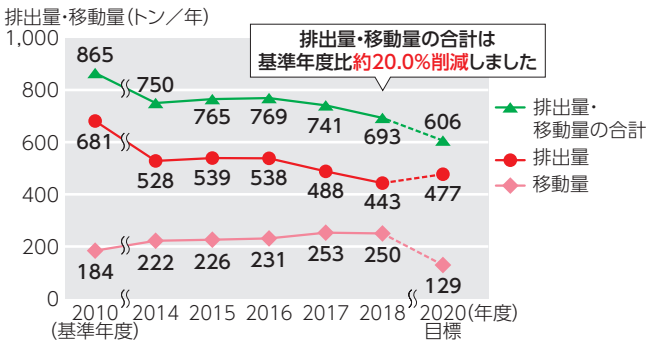


●最終処分量および最終処分率*

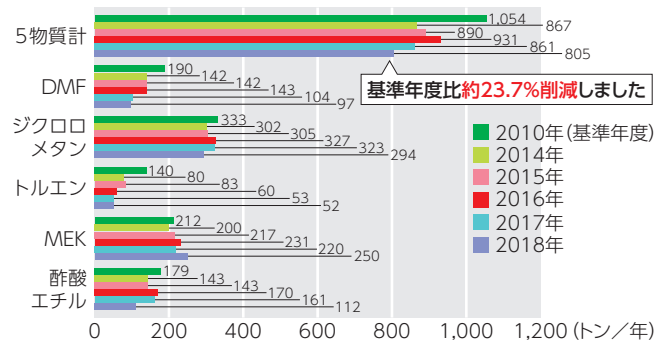


大気汚染防止(環境負荷物質)

●PRTR法対象化学物質の排出量・移動量



●環境負荷5物質の大気排出量



事業場別データ ※2018年4月~2019年3月

●PRTRデータ

PRTR法対象 第一種指定化学物質名	足利第一工場			足利第二工場			美唄工場			アキレスマリン株式会社		
	排出量		廃棄物	排出量		廃棄物	排出量		移動量	排出量		移動量
	大気	水域		大気	水域		大気	水域		大気	水域	
アンチモン及びその化合物	0.00	0.00	3.10	0.00	0.00	0.04	—	—	—	—	—	—
キシレン	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.11	—	—	—	—	—	—
ジクロロメタン(塩化メチレン)	160.00	0.00	5.80	2.80	0.00	0.15	11.00	0.00	0.72	—	—	—
N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)	97.00	0.30	1.70	—	—	—	—	—	—	—	—	—
m-トリレンジイソシアネート	0.11	0.00	0.08	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00	—	—	—
トルエン	45.00	0.00	1.40	5.10	0.00	0.27	—	—	—	2.10	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.87	0.00	24.00	0.13	0.00	110.00	—	—	—	—	—	—
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	0.00	0.00	1.80	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.44	—	—	—

PRTR法対象 第一種指定化学物質名	滋賀第一工場			滋賀第二工場			九州工場		
	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量
	大気	水域		大気	水域		大気	水域	
キシレン	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—
ジクロロメタン(塩化メチレン)	—	—	—	110.00	0.00	5.40	—	—	—
トリレンジイソシアネート	—	—	—	0.08	0.00	0.00	—	—	—
トルエン	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.62	0.00	81.00	—	—	—	—	—	—
1-プロモプロパン	—	—	—	3.30	0.00	13.00	—	—	—
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	—	—	—	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネート	—	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
リン酸トリフェニル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	—	—	—

PRTR法該当物質：2018年度の年間取扱量1トン以上の第一種指定化学物質のうち、排出量・移動量が多い上位物質のみ掲載(単位：トン/年)
横線の物質は報告対象外(取扱量1トン/年未満)

●水質

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	足利第二工場No.1*	足利第二工場No.2*	基準値	滋賀第一工場No.1*	滋賀第一工場No.2*	基準値	滋賀第二工場
水素イオン濃度(pH)	pH	5.8~8.6	7.1	7.3	7.3	6.0~8.5	7.4	7.2	6.0~8.5	7.8
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/ℓ	25以下	1.5	2.1	1.2	25以下	1.1	1.4	30以下	<1.0
浮遊物質(SS)	mg/ℓ	50以下	1.3	4.1	1.9	25以下	3.4	1.4	70以下	2.3
ホルマリン抽出物質含有量	mg/ℓ	5以下	<0.5	<0.5	<0.5	5以下	<0.5	<0.5	5以下	<0.5
窒素含有量(T-N)	mg/ℓ	120以下	3.3	3.5	3.3	12以下	0.5	0.4	12以下	2.9
リン含有量(T-P)	mg/ℓ	16以下	<0.1	<0.1	<0.1	1.2以下	<0.05	0.7	1.2以下	0.07

※水質は、足利第二工場は2カ所、滋賀第一工場は2カ所で測定されたものです ※基準値は各事業場所在地の条例によるものです

●大気

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	基準値	滋賀第一工場
SOx(ボイラー)	k値規制	7	—	17.5	—
NOx(ボイラー)	ppm	150	34	150	61

都市ガス使用のため、SOxの排出なし

アキレスのCSR 2019 詳細版

発行日：2019年9月 発行：アキレス株式会社

お問い合わせ先

【コンプライアンス推進室】

〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー

TEL:03-5338-8232 FAX:03-5338-8250

【安全環境推進部】

〒326-8511 栃木県足利市借宿町668

TEL:0284-73-9148 FAX:0284-73-9854